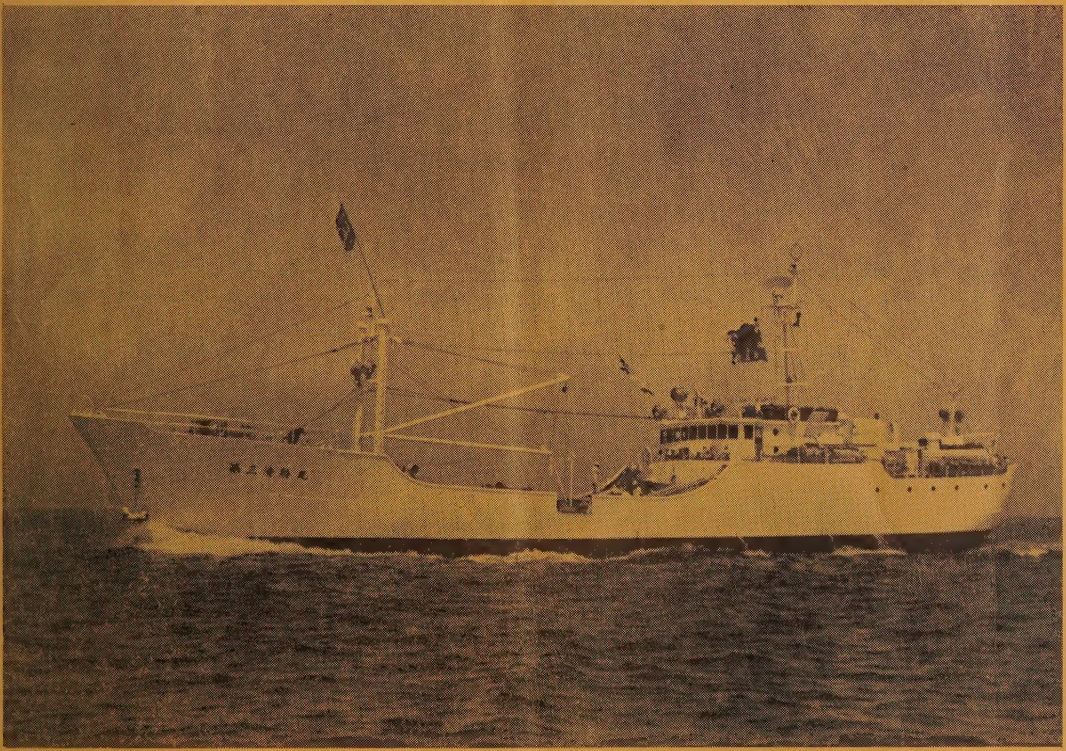
PERIODICAL
Operations November 1958
LIBRARY
DEC 10 1959
FISH & WILDL... SER...
#63

鮪漁業 第六十三号 昭和三十四年十一月十日発行 (毎月一回十日発行)
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可

鮪漁業

TUNA FISHING



—第3 清 勝 丸—

鮪 漁 業 研 究 会

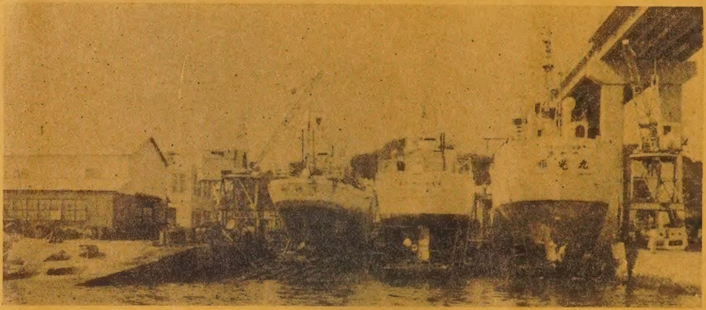
THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNAFISHERY JAPAN

No. 63, 1959
November

══設　備　完　成══

鋼木船造修一般

500噸船台三基
起重機10噸・5噸各一基

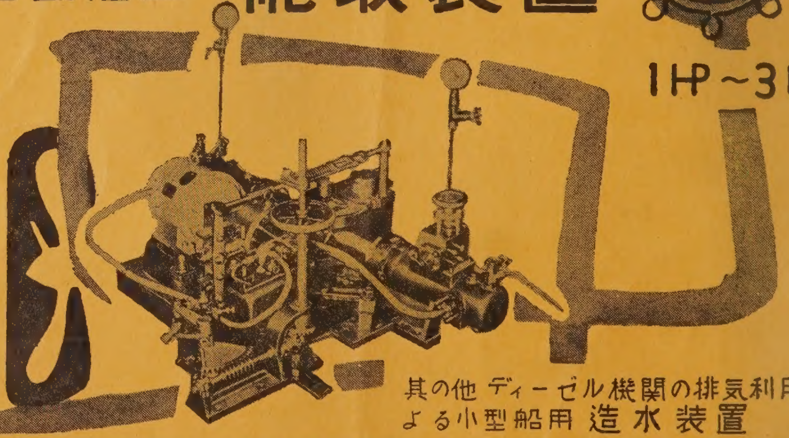


三崎船舶工業株式会社

本　社　東京都中央区西八丁堀２の10
電話築地（55）966・15
工　場　神奈川県三浦市三崎町向ヶ崎2446
電話（三浦）2880・2934・2343

川崎ヘルショウ式
電動油圧　舵取装置

1HP～3HP



其の他 ディーゼル機関の排気利用に
よる小型船用 造水装置

川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四（電）湊川（5）7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目（日比谷ビル）（電）（59）6101
（本紙名記入の上御一報下されはカタログ御送附致します）

目　次

鮪漁船紹介　第28事代丸　なにわ丸　第3清勝丸

鮪漁場図　1958年11月操業

鮪漁況速報　1959年8月下旬，9月上旬，中旬

1958年11月に於ける鮪漁場の漁況と海況（委託調査船334隻の資料に依る）

Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Grounds in Nov. 1958

(By the data collected from the 344 appointed boats) ………… 1

1. 調査の概要 ………… 1

2. 漁況の概要 ………… 1

3. 各海区の漁況と海況 ………… 2

A．赤道以南140°W以東の漁場……… 2

B．赤道以北180°—140°Wの漁場…… 3

C．赤道以南180°—140°Wの漁場…… 3

D．北部太平洋漁場………… 4

E．旧南洋庁沿海漁場………… 6

F．ソロモン以南漁場………… 6

G．西太平洋漁場………… 7

H．東部印度洋漁場………… 8

I．中西部印度洋漁場………… 9

J．大西洋漁場…………10

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（1958年11月操業分）別表1…………11

月別，漁場別，鮪類体長組成表（1958年11月操業分）別表2…………15

鮪類水揚価格表（三崎）昭和34年8月，9月 …………24

マグロ漁況概況予報（1959年12月）………… 神奈川県水試漁業指導科 ………25

マグロ研究報告の紹介 No.6 …………26

かつをまぐろ漁業の現況とその問題点 (2)
北洋さけ・ます漁業者による，かつを・まぐろ漁業転換問題に関連して …………27

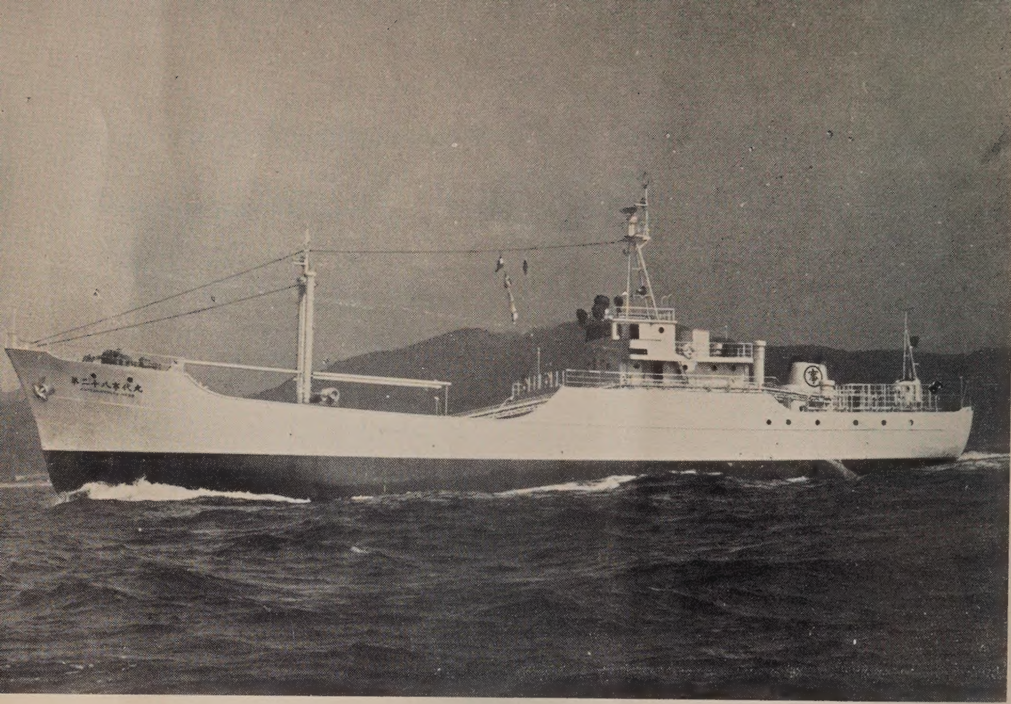
本会の図書誌の分譲其の他について …………31

＝ **表紙写真** ＝　第3　清　勝　丸

船主	用宗遠洋漁業株式会社	造船所	株式会社金指造船所
主要寸法	長45.97m×幅7.80m×深3.90m	総屯数	415.22屯
魚艙容積	400m³	燃料油艙	274.5m³
速力	最大12.08節	主機	デーゼル900IP（赤阪）1基
補機	デーゼル165IP，100IP　各1基	無線	250W，75W　各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式 7″×5.5″ 80IP 1基　7″×5.5″ 60IP 1基		

レーダー（安立），方探（光電），M. C. P.（東計），其の他各1式

竣工　昭和34年8月16日



第28　事代丸

船主	事代漁業株式会社
造船所	株式会社金指造船所
主要寸法	長49.68m×幅8.80m×深4.30m
総屯数	572.64屯
魚艙容積	690m³
燃料油艙	250m³
速力	最大 13.17節
主機	デーゼル 1,100HP（赤阪） 1基
補機	デーゼル 200HP（赤阪） 2基
無線	500W, 100W（三崎無線） 各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式 7.5″×5.5″ 65HP 3基
レーダー, ロラン（東計）, 方探（光電）, 音測（産研）其の他	各1式
竣工	昭和34年9月21日

漁船用中短波無線送受信装置
漁船用中短波無線電話装置
製作工事販売保守一式

合資会社　**三崎無線電**

本社. 営業所　三浦市三崎町仲崎187
工　　場　三浦市三崎町六合原660
八戸出張所　青森県八戸市鮫町住吉8

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株

本　　社　大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）
室戸出張所　高知県室戸市室津
清水出張所　清水市三保本村四区
三崎出張所　神奈川県三浦市三崎町西野34
石巻出張所　宮城県石巻市門脇町104

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社　金指造船所

本社工場　清水市三保4010—19　電話 清水(2) 4111～5
塚間工場　清水市三保弁天492　電話 清水(2) 5151～2
東京事務所　東京都港区芝田村町3ノ4　電話 芝(59)1306～8
三崎出張所　三浦市三崎町西野34　電話（三浦）2851

なにわ丸

船主	株式会社大阪魚市場
造船所	林兼造船株式会社（下関市）
主要寸法	長59.20m×幅10.50m×深5.00m
総屯数	963.81屯
魚艙容積	1,000m³
燃料油艙	450m³
速力	最大 14.34節
主機	デーゼル1,800HP（赤阪） 1基
補機	デーゼル 250HP 2基
無線	500W，100W 各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式 40.1R.T. 2基 三菱電機 50.8 〃 1基
レーダー（協立），方探（光電）M.C.P.，ジャイロ（東計）其の他	各1式
竣工	昭和32年12月7日

機工業所

電話（三浦）2543・3431番
電話（三浦）2960番

装備船名

第28事代丸
第18全功丸
第12福生丸
第32大黒丸
第30振興丸
第18光洋丸
其の他

式会社

TEL. 北浜（23）9736（代表）
TEL. 銀座（57）7607（代表）
TEL. 室戸 352
TEL. 清水（2）3507
TEL. 三浦 2751
TEL. 石巻 505

施工船名

第28事代丸
第3清勝丸
第11八千代丸
第18崎吉丸
第5秋津丸
第35宝幸丸
（其の他約七百隻）

各種漁船用デイーゼル機関は定評ある

50馬力～5000馬力

株式会社 赤阪鉄工所

本社 東京都中央区銀座一ノ三(千成屋ビル)電話京橋（56）4902～3
北海道出張所 札幌市北四条西六丁目（北洋ビル） 電話（3）4507
大阪出張所 大阪市東区北浜四ノ三八 電話北浜（23）4790
工場 静岡県焼津市中港町五九四 電話（焼津）2121～5

鋼製漁船・貨 物 船・建造並びに修理

株式会社 三 保 造 船 所

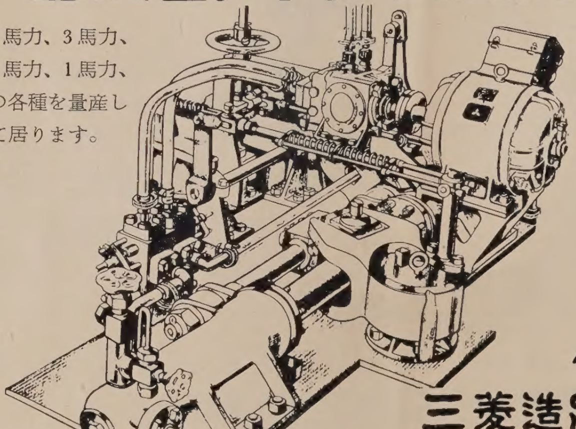
本　　社　静岡県清水市三保3797
電話　清水(2)代表2201番

東京事務所　東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705
電話　千代田(27)5522. 6775. 9761 番

漁船用

三菱(小型)ジヤネー式電動油圧舵取装置

5馬力、3馬力、2馬力、1馬力、の各種を量産して居ります。



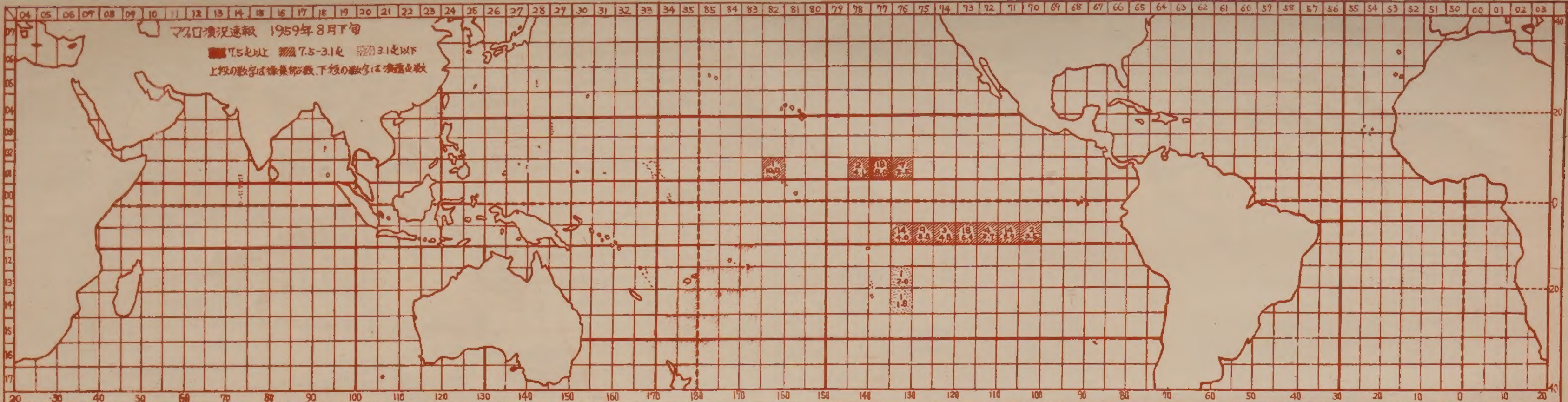
商船及び艦艇用として多年絶対的信用を博している三菱ジヤネー式舵取装置を漁船用として小型化したもので既に100台以上が漁船に取付けられ好評を得て居ります。

三菱造船株式會社

本社　東京都千代田区丸ノ内2の4（三菱本館）
電話　東京（28）代表5111. 3111. 0331

マグロ漁況通報 1959年 8月下旬

■ は7.5屯以上, ▨ は3.1屯から7.5屯まで, ▩ は3.1屯以下を示す。また, 上段の数字は操業船数 下段の数字は漁獲屯数を示す。



(海区の分類)

符号	名称	範囲
アラ	アラビア海	N5°以北, E[illegible]以西
ベン	ベンガル湾	N5°以北, E[illegible]-E100°
中印	中印度洋	N5°-S10°, E[illegible]以西
南印	南印度洋	S10°以南, E[illegible]-E[illegible]
南支	南支那海	N5°以北, E[illegible]以西
西太1	西太平洋1	N20°以北, E[illegible]-E170°
・2	西太平洋2	N5°-N20°,
・3	西太平洋3	N5°-S10°,
濠西	濠州西部	S10°以南, E[illegible]-E130°

符号	名称	範囲
西太4	西太平洋4	S10°-S30°, E130°-E170°
・5	〃 5	S30°以南, 〃
中太1	中太平洋1	N20°以北, E170°-W150°
・2	〃 2	N5°-N20°, 〃
・3	〃 3	N5°-S10°, 〃
・4	〃 4	S10°-S30°, 〃
・5	〃 5	S30°以南, 〃
東太1	東太平洋1	N20°以北, W150°以東
・2	〃 2	N5°-N20°, 〃

符号	名称	範囲
東太3	東太平洋3	N5°-S10°, W150°以東
・4	〃 4	S10°-S30°, 〃
・5	〃 5	S30°以南, 〃
西大北	西大西洋北部	N5°以北, W30°以西
・中	〃 中部	N5°-S5°, 〃
・南	〃 南部	S5°以南, 〃
東大北	東大西洋北部	0°以北, W30°以東
・南	〃 南部	0°以南, 〃

(魚種組成)

海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	インド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	
中太2	25.5	55.3				6.7		12.5		
東太2	41.9	50.7	0.3			6.2	0.2	0.4	0.4	
東太3	32.9	47.6	13.5			3.5	0.3	1.5	0.6	
東太4	53.8	16.9	6.2			3.1		20.0		

(概況)

5-10°N、145-130°Wの海域は8月中旬と殆んど同じ漁獲を呈しているが、魚種組成は著しく変化し、メバチが減少しキハダが増加している。

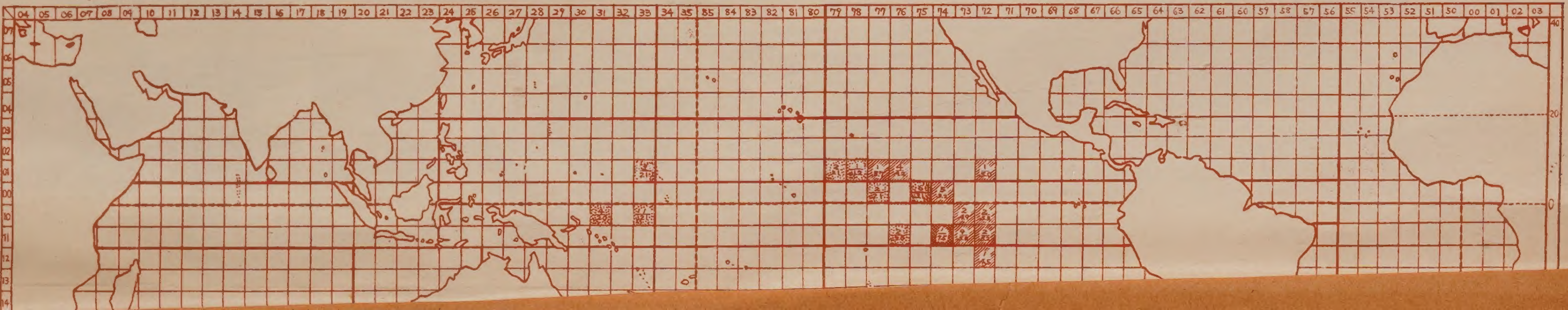
5-10°S、135-100°Wの海域の漁獲は8月中旬より僅に低下しているが、その低下の程度は極めて小さい。また、魚種の分布も8月中旬と殆んど同様で、110°W以東はキハダが多く、110°W以西はメバチが多い。なお、135-130°Wの海域は130°W以東の海域と異なり、7月下旬以降毎旬ビンナガがかなり漁獲されている。

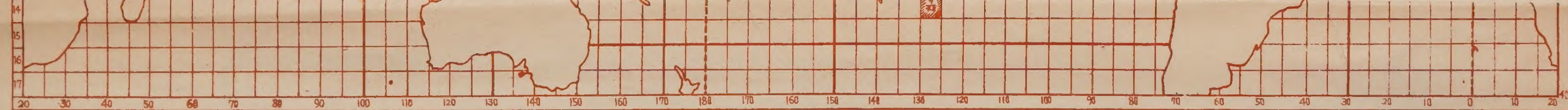
15-25°S、135-130°Wの海域はどの魚種も漁獲が少いが、この漁場の主漁獲対象であるビンナガの漁獲は、この時期には、毎年、10-22°Sの水帯が低く、22-30°Sの水帯が高く、20-25°S、135-130°Wの海区で操業した船は21°S以北で操業しているため、漁獲がなかったものと考えられる。

(註) 漁場小区分の番号ー緯度,経度の略号で示す。北緯及東経では夫々の数字に5をかけた数値から5°上位までの範囲, 南緯,西経は夫々10及50から数えるので, これらの数値から10及50を引いて5をかけたものから5°上位までの範囲

マグロ漁況通報 1959年 9月上旬

■ は7.5屯以上, ▨ は3.1屯から7.5屯まで, ▩ は3.1屯以下を示す。また, 上段の数字は操業船数 下段の数字は漁獲屯数を示す。





（海区の分類）

符号	名称	範囲	符号	名称	範囲	符号	名称	範囲
アラ	アラビア海	N5°以北、E80°以西	西太4	西太平洋4	S10°-S30°、E130°-E170°	東太3	東太平洋3	N5°-S10°、W150°以東
ベン	ベンガル湾	N5°以北、E80°-E100°	・5	〃 5	S30°以南、〃	・4	〃 4	S10°-S30°、〃
中印	中印度洋	N5°-S10°、E100°以西	中太1	中太平洋1	N20°以北、E170°-W150°	・5	〃 5	S30°以南、〃
南印	南印度洋	S10°以南、E20°-E100°	・2	〃 2	N5°-N20°、〃	西大北	西大西洋北部	N5°以北、W30°以西
南支	南支那海	N5°以北、E120°以西	・3	〃 3	N5°-S10°、〃	・中	〃 中部	N5°-S5°、〃
西太1	西太平洋1	N20°以北、E120°-E170°	・4	〃 4	S10°-S30°、〃	・南	〃 南部	S5°以南、〃
・2	西太平洋2	N5°-N20°、〃	・5	〃 5	S30°以南、〃	東大北	東大西洋北部	0°以北、W30°以東
・3	西太平洋3	N5°-S10°、〃	東太1	東太平洋1	N20°以北、W150°以東	・南	〃 南部	0°以南、〃
濠西	濠洲西部	S10°以南、E100°-E130°	・2	〃 2	N5°-N20°、〃			

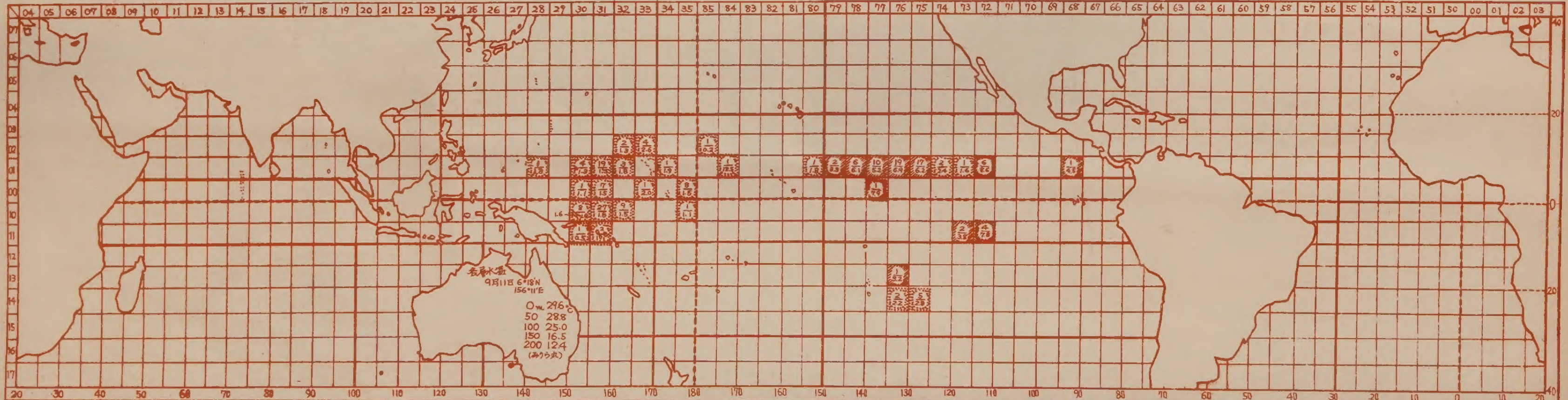
（魚種組成）

海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	インド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	雑魚
西太2	54.7	31.3	0.5			12.9			0.5	
西太3	86.9	7.8				3.3				2.0
東太2	33.4	59.6	0.8		0.6	4.8	0.2	0.4	0.2	
東太3	50.6	34.6	10.5			2.0	0.1	1.2	0.7	0.2
東太4	27.4	10.0	56.8			0.7	0.2	4.9	0.1	

（概況） 0~10°N. 150~130°Wの海域の漁獲の殆んどを占めているメバチは、5~10°N. 130~140°Wの海域が高く3.8尾、5~10°N、150~140°Wの海域は稍低く2.5尾、0~5°N、140~135°Wの海域は低く1.5尾、但し、0~5°N、140~135°Wの海域は4°Nで操業されており、また、5~10°N. 140~135°Wの海域では5°Nの稍北側でキハダが1.5尾と若干漁獲されている。 5~10°N. 115~110°Wの海域と0~5°N. 130~120°Wの海域、及び0~10°S、120~110°Wの海域と10~15°S、115~110°Wの海域の漁獲は殆んどキハダによって占められているが、0~5°N. 130°~120°Wの海域はあまり高くなく1.3尾、120°W以東の海域は赤道以北の海域も比較的高く2.7尾程度である。 なお 0~5°S、115~110°Wの海域はメバチもかなり多獲され、また、0~10°S、120~115°Wの海域は、116°W以東にキハダが多く、分布の境が116°W付近となっている。 5~10°S、125~120°Wの海域はメバチが漁獲の殆んどを占め4.1尾の漁獲となっているが、この漁場の東端は前述したように116°W付近にあるものと考えられる。5~10°S、135~130°Wの海域と、20~25°S、130~125°Wの海域はビンナガが漁獲尾数の半数以上を占め、漁獲高は、北側の海域が0.9尾、南側の海域が1.2尾、なお、南側の海域にはキハダが1.8尾と若干釣れている。

（註） 漁場小区域の番号―緯度、経度の番号で示す。北緯及東経では夫々の番号に5をかけた数値から5°上位までの区域。南緯、西経は夫々10及50から始まるので、これらの数値から10及50を引いて5をかけたものから5°上位までの範囲

マグロ漁況通報 1959年 9月 中旬 ■は7.5尾以上、▨は3.1尾から7.5尾まで、▤は3.1尾以下を示す。また、上段の数字は操業船数、下段の数字は漁獲尾数を示す。



（海区の分類）

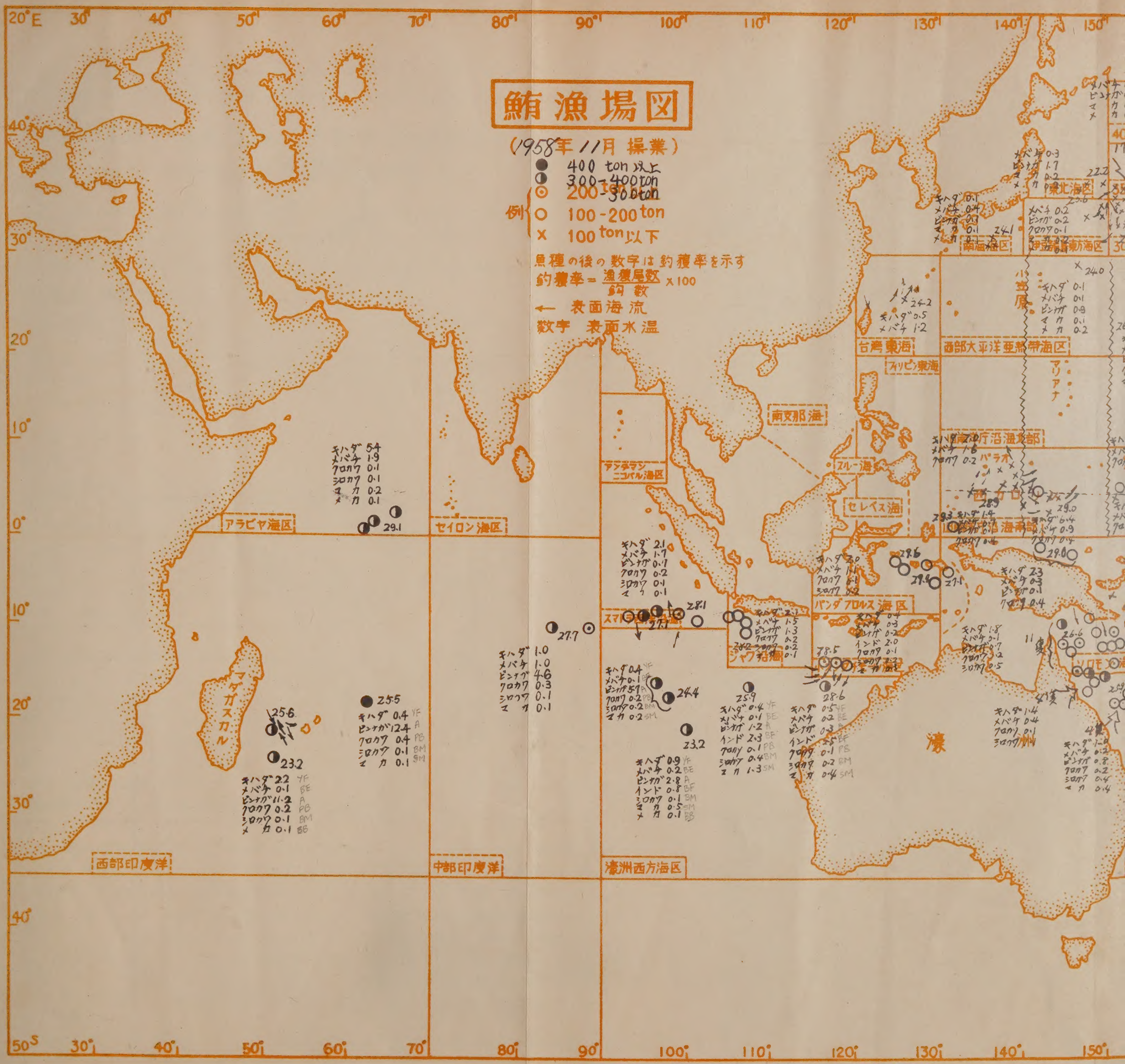
符号	名称	範囲	符号	名称	範囲	符号	名称	範囲
アラ	アラビア海	N5°以北、E80°以西	西太4	西太平洋4	S10°-S30°、E130°-E170°	東太3	東太平洋3	N5°-S10°、W150°以東
ベン	ベンガル湾	N5°以北、E80°-E100°	・5	〃 5	S30°以南、〃	・4	〃 4	S10°-S30°、〃
中印	中印度洋	N5°-S10°、E100°以西	中太1	中太平洋1	N20°以北、E170°-W150°	・5	〃 5	S30°以南、〃
南印	南印度洋	S10°以南、E20°-E100°	・2	〃 2	N5°-N20°、〃	西大北	西大西洋北部	N5°以北、W30°以西
南支	南支那海	N5°以北、E120°以西	・3	〃 3	N5°-S10°、〃	・中	〃 中部	N5°-S5°、〃
西太1	西太平洋1	N20°以北、E120°-E170°	・4	〃 4	S10°-S30°、〃	・南	〃 南部	S5°以南、〃
・2	西太平洋2	N5°-N20°、〃	・5	〃 5	S30°以南、〃	東大北	東大西洋北部	0°以北、W30°以東
・3	西太平洋3	N5°-S10°、〃	東太1	東太平洋1	N20°以北、W150°以東	・南	〃 南部	0°以南、〃
濠西	濠洲西部	S10°以南、E100°-E130°	・2	〃 2	N5°-N20°、〃			

（魚種組成）

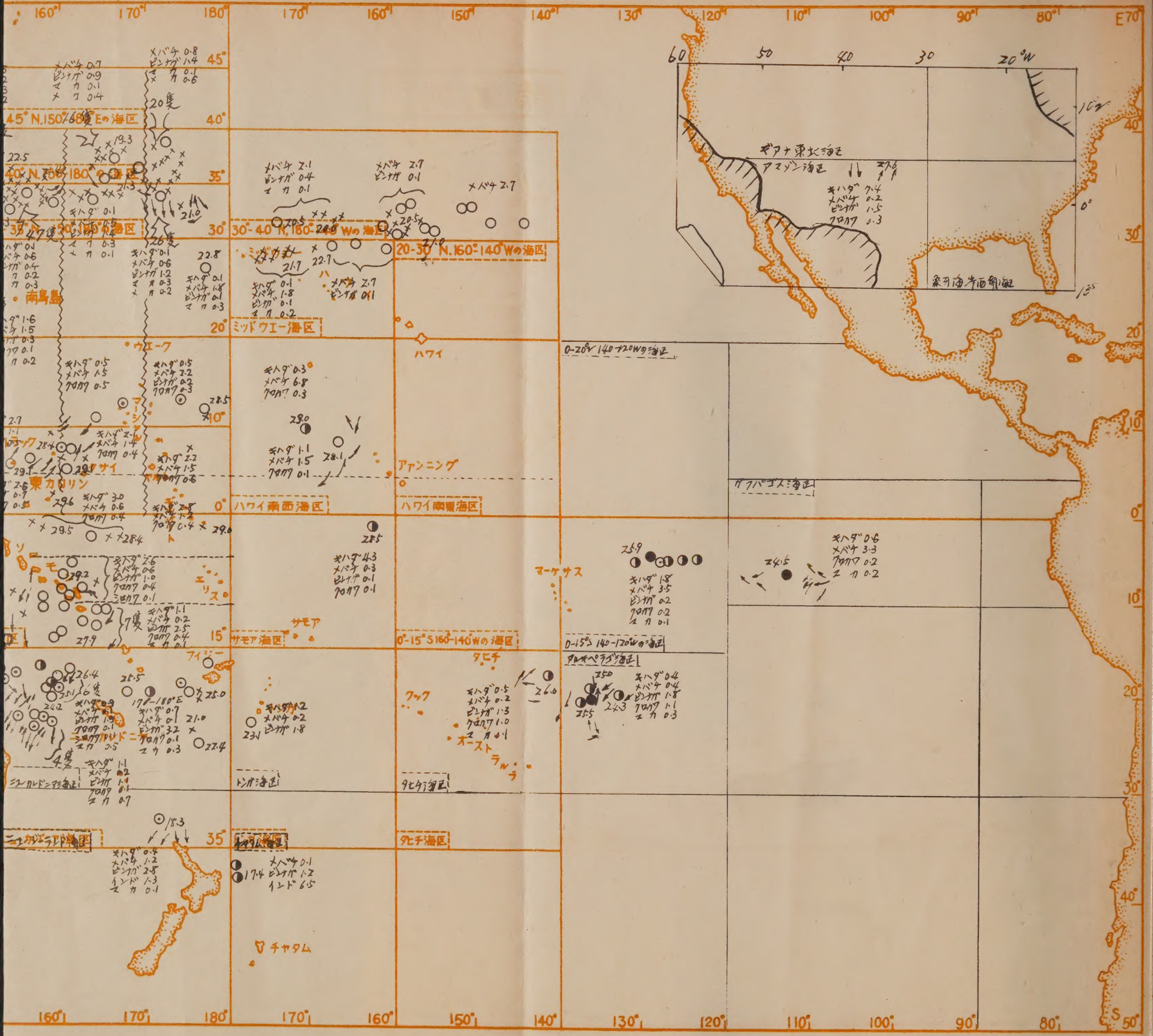
海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	インド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	雑魚
西太2	55.5	28.6	0.5			12.7		0.1	0.1	2.5
西太3	80.8	10.8				4.3	0.5		0.6	2.9
中太2	18.1	73.5				7.2		0.3		0.9
中太3	71.5	20.2	0.2			7.8		0.2		
東太2	23.0	69.3				5.3	0.2	0.8	0.4	1.0
東太3	46.3	42.8	2.7			3.2	0.3	3.0	0.8	1.0
東太4	30.7	9.4	50.6		0.3	0.7	0.3	5.4	2.6	

（概況） 海区西太2は、小海区0131、0132でメバチが0.5尾ばかり漁獲されたが、全般的にはキハダによりその半数が占められており、漁獲は0128、0232が0.9尾、他海域は0.6尾程度である。 なお 6~7°N、156°E付近で部分的にキハダが多獲(2.3尾)された。海区西太3はキハダによりその大半が占められているが、漁獲は1.1尾程度で平年より稍低い。海区中太3は、東端の0180ではキハダがその殆んどを占めているが、0134、0180ではメバチがその殆んどを占めている。漁獲は0134が1.9尾、0184は異例的で8.2尾である。海区中太3はキハダによりその大半が占められ、漁獲は1.1尾、メバチは0.4尾である。 海区東太2は9月上旬と同様に0172ではキハダがその大半を占め、0173以西ではメバチがその大半を占めている。漁獲は0172のキハダが5.9尾、0175以西のメバチが4.6尾、また0175以西ではキハダも0.8尾程度漁獲される。なお、0168は8月中旬の0067と同様メバチが大半を占め、漁獲は2.3尾である。この海区のメバチは好漁期に当るが、この漁獲は平年より稍高い。 海区東太3の0077の漁獲は、キハダが1.4尾、メバチが3.6尾で、メバチが半数を占めているが、この付近のメバチも、その北側の海域と同様好漁期に当り、平年と同程度である。 同海区の1172、1173は9月上旬と同様で、1172はキハダが半数以上を占め、漁獲はキハダ4.7尾、メバチは3.1尾、1173の116°W以西はメバチが大半を占め、漁獲はキハダ1.4尾、メバチが3.1尾、この付近(5~10°S)はキハダもメバチも好漁期である。東太4の漁獲はほぼ同尾数のキハダとビンナガにより占められているが、24°S、132°Wでは1回のみキハダが多獲(操業船3.0)され、異例的である。

（註） 漁場小区域の番号―緯度、経度の番号で示す。北緯及東経では夫々の番号に5をかけた数値から5°上位までの区域。南緯、西経は夫々10及50から始まるので、これらの数値から10及50を引いて5をかけたものから5°上位までの範囲



鮪漁場図
(1958年11月 操業)
例
400 ton 以上
300-400 ton
200-300 ton
100-200 ton
100 ton 以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率 = 漁獲尾数 / 鈎数 × 100
← 表面海流
数字 表面水温
アラビヤ海区
セイロン海区
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
アンダマン ニコバル海区
南支那海
スルー海
セレベス海
バンダ フロルス海区
ジャワ沿海
台湾東海
フィリピン東海
西部太平洋亜熱帯海区
南海海区
東北海区
伊豆諸島東方海区
小笠原
マリアナ
パラオ
マダガスカル
濠
ソロモン



45° N.150°-180° Eの海区
40° N.160°-180°の海区
30°-40° N.180°-140° Wの海区
20-30° N.160°-140° Wの海区
ミッドウエー海区
ハワイ
ウエーク
南鳥島
東カロリン
ハワイ南西海区
ハワイ南東海区
アァンニング
マーケサス
サモア
サモア海区
0°-15° S160-140° Wの海区
フィジー
タヒチ
クック
オーストラル
トンガ海区
タヒチ海区
チャタム
チャタム海区
ガラパゴス海区

1958年・11月における鮪漁場の漁況と海況

（委託調査334隻の資料に依る）

Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Grounds in Nov. 1958
(By the data collected from the 334 appointed boats)

1. 調査の概要

11月における委託調査船は，10月よりさらに増えて334隻に達し，夏以来増加を続けている．調査海区数は，10月とほとんど変らず34である．調査状況を10月に比較すると，太平洋西経北部ではミッドウエー海区，同東経北部では30—3.5°N，150°E—180°の海区の調査船が急増し，特に後者においていちじるしい．南洋南部170°E以西の海域とソロモン海区北部，中部の海域においても増加がめだっている．体長測定船数は214，全調査船を調査港別にみると，三崎76隻，東京205隻，焼津53隻である．

2. 漁況の概要

（キハダ）

ガラパゴス海区は低下しているが，0—15°S，140—120°Wの海区は好漁となり，アルキペラゴ海区は10月から不漁となっている．ハワイ南西海区5°N以北は低率で，タヒチ海区も低率であるがサモア海区は赤道附近で高率が得られ，トンガ海区ではやや高く，南洋北部の東方海域もやや好漁で南洋南部もおおむね好漁であった．ソロモン海区は一般に低率，僅かに北部と中部がやや好漁，ニューカレドニア海区は不漁期，台湾東海は低くバンダ・フロレス海区はやや好漁である．小スンダ・チモール海区では不漁が続き，ジャワ沿海は好漁，スマトラ西岸沿海はやや好漁，濠洲西方と中部印度洋両海区はともに不漁，アラビア海区は盛漁期であるが西部印度洋海区は低い．大西洋漁場のアマゾン海区は好漁である．

（メバチ）

ガラパゴス海区は盛漁期に向いつつありやや好漁，0—15°S，140—120°Wの海区では高率，アルキペラゴ海区は低く30—40°N，180°Wの海区，ミッドウエー海区は好漁である．ハワイ南西海区5°N以北は不漁，タヒチ，サモア，トンガ各海区も低率である．35—40°N，150°E—180°の海区は不漁となり，東側が僅かに高い．30—35°N，150°E—180°の海区も低率となった．伊豆諸島東方海区は低く南海海区も同様，西部太平洋では150°E以東がやや高い．南洋北部は好漁で，南洋南部も一般に好漁であった．ソロモン海区のメバチは，0—5°Sの海域のみがやや好漁，ニュージーランド海区は高率である．台湾東海も好漁，バンダ・フロレス海区は低下しつつあるようで，小スンダ・チモール海区は低率である．ジャワ沿海はスマトラ西岸沿海海区とともに好漁，濠洲西方海区は不漁で中部印度洋北東部とアラビア海区南東部は好漁，西部印度洋中部は不漁である．

（ビンナガ）

0—15°S，140—120°Wの海区は不漁，アルキペラゴ海区は高率となり，30—40°N，180°—140°Wの海区は低率，ミッドウエー海区もまだ不漁である．タヒチ海区北東部はやや好漁の程度，サモア海区赤道附近は低くトンガ海区も不漁であり，チャタム海区北西部はやや好漁であった．35—40°N，150°E—180°の海区は東部が比較的高率，30—35°N，150°E—180°の海区東部と東北海区も高いが，伊豆諸島東方海区は低率，南海海区と西部太平洋諸海域も低い．ソロモン海区では北部と中部が不漁，南部のサンクリストバル島南方のみがやや好漁で，ニューカレドニア海区は東部がやや高くニュージーランド海区は好漁であった．小スンダ・チモール海区，ジャア沿海10°S以南は低く，スマトラ西岸沿海区では最近のこの海区としてはやや好漁，濠洲西方海区と中部印度洋海区北東部は高率，アラビア海区は低いが，西部印度洋海区中部は極めて高率，アマゾン海区はやや好漁のようである．

（インドマグロ）

チヤタム海区においてはまだ好漁，ニュージランド海区は低率，小スンダ・チモール海区はやや好漁，ジャワ沿

海海区では不漁となり，濠洲西方海区も好漁ではない．

（ク　ロ　カ　ワ）

ガラパゴス海区と0—15°S，140—120°Wの海区は不漁，アルキペラゴ海区は好漁である．ハワイ南西海区5°N以北，タヒチ海区，サモア海区およびトンガ海区はいづれも不漁，南洋北部は一般にやや好漁，南洋南部も東方海域でおおむね好漁であった．ソロモン海区においては各海域とも好漁，ジャワ沿海10°S以南の海域はやや高く，スマトラ西岸沿海海区，濠洲西方海区はともに低い．中部印度洋海区北東部はやや好漁でアラビア海区南東部は低率，西部印度洋海区中部は東側が好漁である，大西洋漁場のアマゾン海区は低い．

（シ　ロ　カ　ワ）

ソロモン海区南西部は好漁，ニューカレドニア海区北西部は高率，バンダ・フロレス海区は不漁であるが小スンダ・チモール海区はやや好漁，ジャワ沿海海区および濠洲西方海区はやや低い．

（マ　カ　ジ　キ）

ガラパゴス海区とアルキペラゴ海区は好漁，30—40°N，180°—140°Wの海区，ミッドウエー海区は不漁である．タヒチ海区とサモア海区は低率，トンガ海区はガラパゴス，アルキペラゴ両海区程度の好漁である．35—40°N，150°E—180°の海区および30—35°N，150°E—180°の海区はともに西方が好漁，伊豆諸島東方海区，東北海区は好漁であるが南海海区は不漁である．ニューカレドニア海区のマカジキは北西部で好漁，ニュージーランド海区は低い．小スンダ・チモール海区ではやや低率となり，ジャワ沿海海区は好漁，スマトラ西岸沿海海区と濠洲西方海区においてはそれぞれやや好漁である．中部印度洋海区とアラビア海区では低下した．西部印度洋海区中部は不漁である．

（メ　カ　ジ　キ）

35—40°N，150°E—180°の海区東側と30—35°N，150°E—180°の海区西側において好漁，東北海区と伊豆諸島東方海区はやや好漁であった．

3．各海区の漁況と海況

A　赤道以南140°W以東の漁場

（ガラパゴス海区，0—15°S，140—120°Wの海区，アルキペラゴ海区）

この漁場における調査船は総計11隻で，そのうちガラパゴス海区では1隻，0—15°S，140—120°Wの海区北部は6隻，アルキペラゴ海区北西部4隻で，後2者はそれぞれ10月より増加している．ガラパゴス海区の体長組成は調査できなかった．

（キ　ハ　ダ）

キハダは，ガラパゴス海区において初夏から秋にかけて増減を繰り返しながら不漁期に入り，0—15°S，140—120°Eの海区では10月から増加して1.77を示し，最近のこの海区としてはやや好漁である．アルキペラゴ海区北西部にては極めて低率であった．

0—15°S，140—120°Wの海区では，141—150cmに23,4%と第1モード，111—120cmに20.3%の第2モードがあって比較的小型のものが多く，アルキペラゴ海区では，151—160cmに47.2%のモードが見られて大型である．

（メ　バ　チ）

ガラパゴス海区では依然上昇過程にあり11月は3.33，0—15°S，140—120Wの海区も好漁で3.47，アルキペラゴ海区は10月よりやや低くなって0.40であり，この海区としてはやや好漁である．

0—15°S，140—120°Wの海区においては，151—160cmと131—140cmとにそれぞれ第1，第2モードがあり，アルキペラゴ海区もおおむねこれと同形である．

（ビ　ン　ナ　ガ）

ガラパゴス海区は10月と変らず低率，0—15°S，140—120°Wの海区では10月より倍増したが低く，アルキペラゴ海区では9月以来上昇を続けて高率期となり1.79を示している．

（ク　ロ　カ　ワ）

ガラパゴス海区と0—15°S，140—120°Wの海区とはともに10月の低率から増加してはいるが不漁である．アルキペラゴ海区は盛漁期で，北西部における高率が続いている．

0—15°S，140—120°W の海区では，191—200cm にモードがあり19.8%，アルキペラゴ海区では 181—190cm に38.1%のモードがあり，従来と同様に中型魚が多い．

（マ　カ　ジ　キ）

ガラパゴス海区は0.20で好漁を続け，0—15°S，140—120°W 以東の海区は低く，アルキペラゴ海区では，10月よりさらに増加して0.31と好漁であった。

0—15°S，140—120°W の海区では，151—160cm の体長範囲にモードが見られ，10月よりやや小型となった．また，アルキペラゴ海区では従来と同様に大型で，161—170cm と 171—180cm のものがそれぞれ23.2%を占めて大型であった．

B　赤道以北180°—140°W の漁場

（30—40°N，180°—140°W の海区，ミッドウェー海区，ハワイ南西海区5°N 以北）

30—40°N，180°—140°W の海区における調査船は海区中部に多く，30°N 線の北側で10月とほぼ同数20隻が操業している．ミッドウェー海区も多く，30°N 線附近で12隻が調査され，ハワイ南西海区 5°N 以北では海区中部の 2 隻のみで，10月に比較して激減した．操業位置の詳細，海流，漁場水温等については漁場図を参照されたい．

（キ　ハ　ダ）

30—40°N のキハダは周年低率，ミッドウェー海区北西部では 0.14 であるが，この海区としてはやや好漁，北東部は0.02と極めて低い．ハワイ南西海区5°N 以北の海域は 9 月以来の不漁を続けている．

体長組成をみると，ミッドウェー海区北部では，従来とほぼ同様に 131—140cm にモードがみられるほか，71—80cm に 38.8%と小型魚が多くあらわれて，35—40°N，150°E—180°の海区，30—35°N，150°E—180°の海区と同形になっている．

（メ　バ　チ）

30—40°N，180—140°W の海区では各海域とも好漁期にあり，東寄りに高率となって 140—150°W の海域が最も高く2.73であった．ミッドウェー海区北部のメバチも好漁期で，170—160°W では 2.69，180°—170°W では1.80と東側が高くなっている．ハワイ南西海区5°N 以北の 2 隻は，1.09の率でこの海区としては低く，そのうち中部やや南寄りで操業した 1 隻が，僅かに1.50を得ているに過ぎない．

30—40°N，180°—140°W の海区における体長組成をみると，赤道以南140°W 以東の海区と同様に141—150cm に第 1 モードがあって大型であるが，121—130cm に 16.6%，91—100cm に 13.1%があって小型がやや増えている．ミッドウェー海区においては，151—160cm にモードがあって大型であり，従来と変化ない．

（ビ　ン　ナ　ガ）

30—40°N，180°—140°W の海区におけるビンナガは，調査各船の漁場が東方であったため釣獲率低く，170—160°W の海域が 0.38で最も高い程度である．ミッドウェー海区においても好漁期前で，東方 0.13，西方 0.08と低率，ハワイ南西海区5°N 以北にては周年低く，11月も僅か 1 尾が漁獲されたに過ぎない．

30—40°N，180°—140°W の海区，ミッドウェー海区はともに 101—110cm にモードがみられて西部太平洋，南洋北部と同様，他海区に比して大型であった．

（ク　ロ　カ　ワ）

30—40°N，180°—140°W の海区，ミッドウェー海区においてはともに低率，ハワイ南西海区 5°N 以北では好漁後期から不漁期に入る模様で，11月は0.22を示している．

30—40°N，180°—140°W の海区では大型，ミッドウェー海区も 201—210cm にモードがあって大型であるが，10月よりやや小型となっている．

（マ　カ　ジ　キ）

マカジキは30—40°N，180°—140°W の海区において10月より減少，各海域とも低率となって170°W 附近が0.05で最も高い程度，ミッドウェー海区では好漁後期から不漁期に入り，北西部0.16，北東部0.02であった．

体長組成をみると，30—40°N，180°—140°W の海区，ミッドウェー海区とも10月と同形，従来の傾向より小形である．

C　赤道以南180°—140°W の漁場

（タヒチ海区，サモア海区，トンガ海区，チャタム海区）

11月の調査船は，トンガ，チャタム両海区で減少したため，総計5隻に激減している．タヒチ，サモア両海区では，それぞれ北東部で1隻づつ，トンガ海区では海区中部の西側で1隻，チャタム海区においては10月と同じ海区北西部で大型船2隻が調査されている．

（キ　ハ　ダ）

タヒチ海区のキハダは，北東部で10月の北西部に比較して激減し0.54，サモア海区北東部では7月と同様に極めて高率が得られ，トンガ海区のトンガ諸島南西方海域も好漁で1.19を示して，最近のこの海区としては高率である．チャタム海区では周年不漁で，11月も漁獲皆無であった．

体長組成をみると，調査尾数の少いタヒチ海区では151—160cmに，サモア海区では131—140cmにモードがみられ，従来に比較して前者は大型，後者はおおむね同様である．

（メ　バ　チ）

タヒチ海区では，10月の海区北西部より増加しているが，北東部で0.19と低い．サモア海区北東部においても0.32と低率，トンガ海区は10月の0.37から11月は0.17と低下，9月と同率になった．チャタム海区のメバチは周年低く，11月0.06であったが，これはこの海区としては好漁である．

タヒチ海区のメバチの体長組成は，111—160cmのものが大部分を占め，モードは131—140cmにみられて大型魚が減少している．

（ビ　ン　ナ　ガ）

タヒチ海区では好漁期にあるようで北東部において1.33を示し，なお上昇が期待される．サモア海区10月のビンナガは，北西部で極めて高率5.39であったが，11月北東部では0.06と非常な不漁，トンガ海区のビンナガは夏の高率から減少を続けつつあり，11月には1.81と低下して不漁期である．チャタム海区では9月から僅かづつ増加して11月は1.19となった．12月1月にはさらに上昇が期待される．

（インドマグロ）

インドマグロはチャタム海区において好漁期であるが，昨年の傾向と異なり9月から減少過程にあるようで，11月は6.48に低下している．

（クロカワ，マカジキ）

クロカワはタヒチ海区において好漁期にあり，10月まで低率が続いたが，11月には北東部で0.97の好漁を示した．サモア海区北東部においては0.13と不漁，トンガ海区中西部でも不漁が続いている．

マカジキは，タヒチ海区北西部において10月は高率0.56であったが，11月の同海区北東部では0.09と低くなり，サモア海区北東部赤道附近は不漁，トンガ海区中西部では9月以来の同率が続いて0.20と好漁である．

タヒチ海区のクロカワは，181—190cmにモードがあって従来と大きな変化なく，171—190cmの体長範囲のものが57.5%に達している．

D　北部太平洋漁場

（30—40°N，150°E—180°の海区，30—35°N，150°E—180°の海区，東北海区，伊豆諸島東方海区，南海海区，西部太平洋170°E以東および以西）

11月のこの漁場の調査船は北部海区において増加し，特に30—35°N，150°E—180の海区で激増している．35—40°N，150°E—180°の海区では10月より減少したが，東北海区，伊豆諸島東方海区，西部太平洋170°E以東および以西では，それぞれ1—3隻が調査されている．各船の操業位置，漁場における表面水温，海流等については漁場図を参照されたい．

（キ　ハ　ダ）

この漁場の30°N以北の海区では周年不漁で，西部太平洋140—150°Eの30°N線南側は0.05と低く，150—160°Eの海域の南鳥島西方は0.59と高い．170°E—180°の海域北東部では0.11と低率であった．

体長組成をみると，35—40°N，150°E—180°の海区と30—35°N，150°E—180°の海区は同形，121—150cmと71—80cmにそれぞれ第1，第2モードがあって従来とおおむね同様である．南海海区と西部太平洋170°E以西では，121—130cmにモードがみられて，後者では71—80cmに第2モードがあった．

（メ　バ　チ）

35—40°N，150°E—180°の海区では，8月の高率から低減しつつあって11月は0,71を示し好漁末期である．釣獲率を海域別にみると，150—160°Eは0.47，160—170°Eでは0.72，170°E—180°は0.80で東寄りに高い．30—35°N，150°E—180°の海区でも夏の高率から減少しつつあり，11月は海区平均0.61と低く，170°E—180°の海域が0.72で他の2海域より高い．東北海区南東部は0.28，伊豆諸島東方では0.42，南海海区0.36といずれも好漁ではない．西部太平洋の140—150°E北部は極めて低く0.09，150—160°Eでは南鳥島西方で1.52が得られ，最近のこの海区としては高率，170°E—180°でも1.76で好漁である．

35—40°N，150°E—180°の海区と30—35°N，150°E—180°の海区では，111—120cmと141—150cmに第1，第2モードがあり，120cm以下の比較的小型のものが増加している，東北海区では141—150cmと111—120cmに第1，第2モードがあって，従来の35—40°N，150°E—180°の海区，30—35°N，150°E—180°の海区における傾向と同様である．調査尾数の少かった伊豆諸島東方海区では，131—150cmのものが50％以上を占め，120cm以下の小型魚も43.5％と多い．南海海区においては，91—100cmに250％の第1モード，131—140cmに17.4％の第2モードがあって本年春季と同様の傾向である．また，西部太平洋の170°E以東海域では，141—150cmに第1モードがあり，120cm以下に第2，第3モードがみられて大型が多く，170°E以西の海域では，91—100cmと111—120cmにそれぞれ第2，第3モードがあって本年1月頃と同様の組成である．

（ビ　ン　ナ　ガ）

35—40°N，150°E—180°の海区のビンナガは，9月から東寄りに好漁となり，10月は170°E—180°の海域で一旦減少したが，11月には3海域ともそれぞれ増加して好漁期である．30—35°N，150°E—180°の海区では，170°E—180°の海区において10月は2.52の高率であったが，11月にはこの海域で2.29とやや減少，他の2海域はそれぞれやや増加している．12月にはなお釣獲率の上昇が見込まれる．東北海区のビンナガは1.66であるが，伊豆諸島東方海区北東部は5.91の高率で好漁期である．南海海区では10月に続いて不漁0.07を示したに過ぎない．西部太平洋の諸海域は好漁期前で，140—150°E 0.88，150—160E 0.27，170°E—180° 0.10と西寄りに高い．12月には更に増加が期待される．

この漁場の各海区における体長組成をみると，35—40°N，150°E—180°と30—35°N，150°E—180°の両海区はともに91—100cmにモードがあって，従来に比べて大きな変化はないが，前者は80cm以下の小型魚が10.4％に達している．

東北海区，伊豆諸島東方，南海海区の3海区はいずれも81—90cmにモードがあって小型，西部太平洋150°E附近では101—110cmにモードがみられてやや大きい．

（ク　ロ　カ　ワ）

30°N以北ではクロカワは周年不漁，西部太平洋の各海域も低く140—150°E 0.01，170°E—180° 0.02と不漁である．

体長組成をみると，30°N以北の5海区では中型魚が多く，いずれも小型のものは少い．

（マ　カ　ジ　キ）

35—40°N，150°E—180°の海区では好漁期にあり，150—160°Eの海域0.33，170°E—180°は0.14を示し，30—35°N，150°E—180°の海区も高く，3海域とも0.2—0.3の好漁である．東北海区南東部，伊豆諸島東方海区北東部も高く，南海海区南部は0.08で低率である．西部太平洋では140—150°Eが0.12でやや低いほか，150—160°E，170°E—180°はそれぞれ0.20，0.25と好漁であった．

体長組成をみると，35—40N，150°E—180°の海区，30—35°N，150°E—180°の海区，東北，伊豆諸島東方の4海区においては，いずれも131—140cmにモードがみられ，昨年に比較するとやや小型である．南海海区と西部太平洋170°E以西の海域では，ともに121—130cmにモードがあって昨年より小型である．

（メ　カ　ジ　キ）

35—40°N，150°E—180° の海区は好漁期にあって東寄りに高く，170°E—180° の海域は0.55と最も高率である．30—35°N，150°E—180°の海区では150—160°Eの海域が0.29，160—170°E 0.14，170°E—180° 0.09と西寄りに高く，さらに増加が見込まれている．

35—40°N，150°E—180°の海区と30—35°N，150°E—180°の海区におけるメカジキの体長組成をみると，他海

区と異なり小型魚から大型魚まで広く分布していて，ともに第1モードは181—190cmにみられてそれぞれ13.1%，15.2%を占め，120cm以下の小型のものも多く，それぞれ27.5%，23.0%を占めている．東北，伊豆諸島東方，2海区も前2海区と同様の傾向を持つようで，西部太平洋170°E以西の海域と南海海区では，121—130cmと171—180cmの体長範囲にモードがあり，昨年来の西部太平洋とおおむね同様の組成である．

E 旧南洋庁沿海漁場

（南洋北部170°E以東および以西，南洋南部170°E以東および以西）

南洋北部では10月とほぼ同じくマーシャルの東方および西方で計4隻，南洋南部では，170°E以東は1隻に減少しているが，170°E以西の各海域では，140°Eおよび160°E附近の調査船が激増して33隻，この漁場の調査船は総計38隻であった．

（キ　ハ　ダ）

南洋北部160—170°Eでは9月からの減少を続けて0.50となったが，この海区としては好漁である．北部170°E—180°の海域では0.53と高率，南部の諸海域はいずれも上昇に転じて特に140—150°Eの5°N以南が6.41と極めて高率，一般に好漁である．

北部および南部170°E以東以西ともモードは111—120cmにあり，111—130cmのものが70%前後に達して131cm以上のものは少く，従来の傾向と同様であった．

（メ　バ　チ）

北部マーシャル附近のメバチは，両海域ともに増加しつつあって好漁前期と思われ，10月に減少した南部160°E以西の海域も11月は増加して各海域おおむね好漁である．

北部のマーシャル東側海域における体長組成をみると，26.9%が121—130cmにあって第1モードとなり，111—130cmのものが46.9%に達している．南洋南部においては，140—150°Eの海域においてのみ111—120cm，他海域では131—140cmにモードがみら，れおおむね従来と同様である．

（ク　ロ　カ　ワ）

北部160—170°Eの海域では，9月から次第に減少を続けているが，11月は0.47となお高率である．北部170°E—180°の海域も9月から次第に減少して0.29，この海域としてはやや好漁である．南部130—140°Eのクロカワは10月の高率0.43から半減して0.22となり，140°E以西の各海域も僅か増減しているが，おおむね好漁である．

これらの海区におけるクロカワの体長組成をみると，北部のマーシャル東側では，10月141—150cmにみられたモードが161—170cmにうつって大型となり，南部170°E以東では151—160cmから141—150cmに第1モードがうつり，130cm以下にあった第2モードは変らない．南部170°E以西では10月と変らず141—150cmに28.5%のモードがみられた．従来の傾向に比して大きな変化はない．

F ソロモン以南漁場

（ソロモン海区，ニューカレドニア海区，ニュージーランド海区）

ソロモン海区における調査船は10月よりさらに増加して37隻，ニューカレドニア海区では10月と変らず31隻が同漁場で調査された．また，ニュージーランド海区においては，ノース・アイランドの北西方海域で1隻が調査されている．

（キ　ハ　ダ）

ソロモン海区0—5°Sにおいては，3—8月の高率後やや低率となり2.79，5—10°Sのソロモン諸島附近もほぼ同率2.58，10—15°Sの海域では10月と同様に中部で1.06，西部のヨーク半島東方1.75の率であった．ニューカレドニア海区各海域は170°E—180°の海域を除いて釣獲率低下，好漁後期であり，150°E以西の海区北西部が最も高率1.40であった．またニュージーランド海区では，10月の北西部における高率に比して，11月は北東部で0.42と低い．

ソロモン海区における体長組成をみると，121—130cmにモードがあり，ニューカレドニア海区では131—140cmにモードがみられ，10月と同じ傾向を示して後者は前者より大型である．前者では，昨年に比較して小型魚の減少がめだっている．

（メ　バ　チ）

ソロモン海区のメバチは，0—5°Sの海域東部のギルバート附近で1.19と高いが，170°E以西では低く0.62，5—10°Sのソロモン諸島附近は0.38，10—15°Sの中部は0.20でそれぞれこれらの海区としては好漁，10—15°Sの西部は0.09で不漁であった．ニューカレドニア海区では，どの海域においても0.11—0.15が得らて低率，好漁末期である．ニュージーランド海区のノース・アイランド北西方では，1.21の好漁が得られている．

ソロモン海区における体長組成は，モードが9月，10月と同じく111—120cmにあって従来と変らず，ニューカレドニア海区では131—140cm，ニュージーランド海区では121—130cmにモードがみられ，前者は10月よりやや大型となり，9月と同様に昨年来以来の組成に比較してやや大型の傾向であった．ニュージーランド海区でも9月に比してやや大型，モードは121—130cmにみられたが従来と大きな変化はない．

（ビ　ン　ナ　ガ）

ソロモン海区0—5°Sにおいては不漁期であり，5—10Sのソロモン諸島附近では10月以来低率となって0.99の不漁，10—15°Sの海域では中部で好漁が得られて2.47，西部は0.65の不漁であった．ニューカレドニア海区のビンナガは，9月から低減過程にあり，11月には海区北西部で0.02と低率，150—160°Eでは1.07，170°E—180°においては3.24で好漁であった．ニュージーランド海区北東部は好漁期で2.78と極めて高率が得られている．

ソロモン海区5—15°S海域の東—中部では，81—90cmに50.4%のモードがあり，91—100cmが48.0%と増加したが，体長組成は大きな変化はなく，ニューカレドニア海区の北部では10月と変らず91—100cmにモードがみられて，おおむね従来と同様である．

（インドマグロ）

インドマグロは，ニュージーランド海区において好漁終期となって，ノース・アイランド北西方で1.31を示している．

この海区における体長組成をみると，141—150cmにモードがあって昨年に比較して大型，一昨年末と同形である．

（ク　ロ　カ　ワ）

ソロモン海区0—5°Sの海域は0.38で東部西部とも好漁，5—10°Sにおいても0.40で高く，10—15°Sでは160—170°Eの海域で0.39，160°E以西は0.19と西部が低い．ニューカレドニア海区は好漁期前でまだ各海域とも低く，150—160°Eの北部で得られた0.16が最も高い程度であった．ニュージーランド海区では周年不漁で，11月は全く漁獲がなかった．

ソロモン海区とニューカレドニア海区におけるクロカワの体長組成は同形であり，ともに161—170cmにモードがみられ，前者は141—150cmに第2モードがあって9月，10月と同様である．後者も10月と同じ組成で，9月以来200cm前後の比較的大型のものが減少している．

（シ　ロ　カ　ワ）

10月に好漁であったソロモン海区10—15°Sの西部では，11月には0.45と半減，ニューカレドニア海区では140—150°Eの海域で好漁となり1.13の高率であったが，150°E以東の海域は極めて低かった．

ソロモン，ニューカレドニア両海区の体長組成をみると，いずれも第1モードが251cm以上，第2モードは181—190cmにあり，後者は10月に変らず両海区とも小型魚が少く大型魚が多い特異な傾向を示している．

（マ　カ　ジ　キ）

マカジキはニューカレドニア海区で好漁期に入り，特に110—160°Eの海区で0.71の高率，他海域では170°E—180°で0.25，140—150°Eで0.01と低い．ニュージーランド海区北東部は0.08で低い．

ソロモン海区，ニューカレドニア海区におけるマカジキの体長組成は，9月，10月と同じく161—170cmにモードがみられて昨年，一昨年より小型の傾向がうかがわれる．

G　西　太　平　洋　漁　場

（台湾東海）

本年春以来，6ヵ月ぶりに台湾東海海区の中部で小型船1隻が調査されている．海流は北東流が多く，表面水温は西部太平洋西部，南海海区とほぼ同じく平均24.2°Cであった．

（キ　ハ　ダ）

海区中部のキハダは，0.50を示して本年4月と同率である．この海区としては好漁といえない．

体長組成をみると，第1モードは81—90cmにあって26.5%，また，111—120cmに15.7%の第2モードがみられて昨年，一昨年の傾向に比較して小型魚が増加している．

（メ　バ　チ）

メバチは好漁で1.19を示し，春の不漁に比して対照的である．

この海区のメバチの体長組成をみると，111—130cmの範囲に32.3%がみられ，モードは111—120cmの16.4%であって本年春季に比して大きな変化はなく，他海区よりやや小型の傾向にある．

（そ　の　他）

ビンナガ，クロカワ，シロカワ，マカジキいずれも低率，不漁である．

H　東部印度洋漁場

（バンダ・フロレス海区，小スンダ・チモール海区，ジャワ沿海海区，スマトラ西岸沿海，濠洲西方海区）

11月のこの漁場における調査船は，スマトラ西岸沿海南部で4隻が新しく調査されたほか，バンダ・フロレス海区ではブル島，セラム島南方で5隻，小スンダ・チモール海区南西部では10月より減じて3隻，ジャワ沿海においては増加がみられて4隻，濠洲西方海区では北部で東西に広く5隻が操業していて，この漁場の調査船総計は21隻であった．漁場の表面水温，海流等については漁場図を参照されたい．

（キ　ハ　ダ）

バンダ・フロレス海区のキハダは10月に続いてやや好漁，ブルおよびセラム両島の南方海域で2.00が得られ，小スタンダ・チモール海区は好漁期であるが南西部では低率0.43である．ジャワ沿海は10°S以北以南とも好漁期にあって，以北2,20は以南1.83より高い．暫くの間，好漁が続くであろう．スマトラ西岸沿海のキハダは，海区南部の10°S線北側で2.13が得られ，最近のこの海区としては普通の釣獲率である．濠洲西方海区の北部はいずれの海域も低率で，中部に近く操業した1隻が漸く0.91であって，海区平均0.53と不漁を示した．

バンダ・フロレスとジャワ沿海両海区では121—130cmに，小スンダ・チモール海区では131—140cmにモードがみられ，いずれも10月より大型魚が増え，従来よりやや大型である．スマトラ西岸沿海においては，111—120cmと131—140cmとに第1，第2モードがあり，従来の傾向に比して大きな変化はなく，濠洲西方海区中部の北西寄り海域は141—150cmにモードがみられて，昨年2月の同海区北西部における組成と同様，本年春の海区北東部における組成より小型である．

（メ　バ　チ）

バンダ・フロレス海区では10月よりやや低下して1.09となった．小スンダ・チモール海区では南西部において10月0.19より増加し，9月とほぼ同率で不漁である．ジャワ沿海では好漁期にあり，10°S以北以南の海域とも高率であるが，以北1.35，以南1.62と以南がやや高い．スマトラ西岸沿海南部も好漁期で1.67とやや好漁，濠洲西方海区北部と中部は不漁で，北東部の1隻が0.21を示して最も高い程度である．

バンダ・フロレスとジャワ沿海両海区における体長組成をみると10月に変らず，モードは131—140cmにあって従来とほぼ同形．小スンダ・チモール海区では，111—120cmにモードがみられて10月よりさらに小型となり，スマトラ西岸沿海の南部では，121—150cmの範囲に59.2%があった．

（ビンナガ，インドマグロ）

ビンナガは，バンダ・フロレス海区では漁獲なく，小スンダ・チモール海区は不漁期で0.22の低率，ジャワ沿海海区は低減過程にあって，10月に示した突然の高率から急減して平均釣獲率1.28，海域別に見ると10°S以北1.95，以南0.49と以北が高い．今後なお低下するであろう．スマトラ西岸沿海南部は0.67を示し，最近のこの海区としてはやや好漁，濠洲西方海区北部では西寄りに高率で，海区北西部が5.68と極めて好漁を示した．

インドマグロは，小スンダ・チモール海区において盛漁期後の低率となり，10月4.91の好漁から2.00と半減した．ジャワ沿海も好漁後の不漁で，既に漁獲皆無となっている，濠洲西方海区北部は好漁期に入り始め，海区北部海域の中部から東部にかけて2.3—2.5の好漁となり，平均釣獲率1.06を示している．

ビンナガの体長組成をみると，小スンダ・チモール海区南西部においては，91—110cmのものが多く，本年初め

以来の傾向を示し，ジャワ沿海では９月にやや大型魚が増えたが，11月にはモードが91—100cmにうつり85.6％を示している．111cm以上には14.4％があってやはり大型の傾向である．

小スンダ・チモール海区におけるインドマグロは，体長組成のモードが 151—160cm にあって，昨年同期および２月以来の傾向と同様である．

（ク　ロ　カ　ワ）

バンダ・フロレス海区のクロカワは，10月より低下して0.10，小スンダ・チモール海区では，９月以来同率が続いて0.09である．ジャワ沿海海区においては９月から上昇を続けつつあり，10°S 以南が 0.22を示して以北0.11より高く，スマトラ西岸沿海では0.15とあまり好漁ではない．濠洲西方海区では北西部が0.22で最近のこの海区としては好漁，海区平均釣獲率は0.13と低い．

体長組成をみると，バンダ・フロレス，小スンダ・チモール，ジャワ沿海の３海区においては，161—170cm にモードがみられ，濠洲西方海区中部—北西部では 171—180cm にモードがあって，従来に比較して大きな変化はない．

（シ　ロ　カ　ワ）

バンダ・フロレス海区のシロカワは，次第に好漁期に入り10月より倍増して0.18となったが，一昨年までのような冬季の好漁は得られないようである．小スンダ・チモール海区においては，10月より低下して0.24とやや好漁の程度で，ジャワ沿海海区は10月より低下して 10°S 以北以南とも 0.19と 不漁，スマトラ西岸沿海南部は 0.07 の低率，濠洲西方海区においては北部が高く，その中部海域で 0.41の好漁が得られた．海区北東部および北西部は 0.2程度，海区中部に近く操業した１隻は0.08と最も低い．

体長組成をみると，各海区とも調査尾数は少いが，バンダ・フロレス，小スンダ・チモール，ジャワ沿海の３海区では，９月，10月と同様に141—150cmに第１モードがあり，第２モードは191—200cm附近にあって比較的大型のものが多い傾向を示している．濠洲西方海区においては，211—220cm と181—190cm にそれぞれ第１，第２モードがあり，大型魚が多い模様である．

（マ　カ　ジ　キ）

バンダ・フロレス海区では低く，小スンダ・チモール海区では10月に比して激減し0.33，ジャワ沿海海区においては好漁期であるが 10°S 以北 0.13，以南0.14を示してそれ程高率とならない．スマトラ西岸沿海南部では，ジャワ沿海と同率であり，この海区としては好漁である．濠洲西方海区北部は好漁，特にその中部の１隻は1.27を得て盛漁期にあるものと思われる．

バンバ・フロレス，小スンダ・チモール，ジャワ沿海，濠洲西方の４海区における体長組成は，11月と同様に131—140cmにモードがみられ，従来より大型魚が減少し，小型魚が増加している．

I　中西部印度洋漁場

（中部印度洋海区，アラビア海区，西部印度洋海区）

中部印度洋海区においては，北東部の 10°S 附近で２隻を調査し，アラビア海区にては，10月とほぼ同様に赤道北側の漁場で３隻，西部印度洋海区ではマダガスカル島東側60°W附近２隻と60°W附近の大型船１隻，計３隻が調査され，11月におけるこの漁場の調査船総計は８隻であった．体長組成はアラビア海区においてのみ調査された．

（キ　　ハ　　ダ）

中部印度洋海区北東部の10°S，85°W附近では，1.04を示してこの海区としては極めて不漁となった．アラビア海区南東部では盛漁期にあって，10月よりさらにやや高く5.36の高率を示している．12月からは漸次低下過程に入るであろう．西部印度洋海区のキハダは，漁場東部で極めて不漁0.40，西部のマダガスカル東海岸沖では2.18でやや好漁であった．

アラビア海区における調査尾数は58尾と少いが，モードは131—140cm に 36.2％がみられて，おおむね従来の傾向と同様である．

（メバチ，ビンナガ）

中部印度洋海区北東部におけるメバチは，10月の北西部よりやや低下し，0.97を示している．アラビア海区南東部の赤道北側海域は，10月の高率2.27から低下して1.86となったが，この海区としては好漁である．西部印度洋海

区では8月以来不漁となって，11月の中部海域では0.1以下の低率であった．

ビンナガは，中部印度洋海区の北東部が高率となって4.57，10月のいちじるしい低率に比較して急激な増加である．アラビア海区では不漁期で漁獲皆無，西部印度洋海区においては8月以来高率が続き，11月の海区中部も極めて好漁であった．

アラビア海区におけるメバチは，従来に変らず大型であるが，小型魚が増加して131—140cmと101—110cmとにそれぞれ19.1%のモードがみられ，131—160cmの体長範囲のものが52.1%に達している．

（ク　ロ　カ　ワ）

中部印度洋海区にては，10月より増加して0.26となりやや高く，アラビア海区では不漁期に入っていて，10月と同じく低率0.12である．西部印度洋海区中部では，50°W附近と60°W附近とで釣獲率が異なり，前者は0.20で低いが，後者は0.40に達して好漁である．

（マ　カ　ジ　キ）

中部印度洋海区北東部のマカジキは不漁0.08，アラビア海区南東部は9月，10月の好漁からやや減じて0.18となり，西部印度洋海区は，中部海域において低率である．

アラビア海区南東部における11月のマカジキは，比較的小型のものが多いようである．

J　大　西　洋　漁　場

（アマゾン海区）

10月に続いてアマゾン海区北部で1隻が調査されている．海流の方向は，35°W附近では北流が多く，40°W附近では南流が多いようである．表面水温は平均27.6°Cであった．体長組成は調査できなかった．

（キ　ハ　ダ）

アマゾン海区北部では10月よりさらに増加して7.41となり，好漁が続いている．

（メバチ，ビンナガ，クロカワ）

アマゾン海区のメバチは，10月より僅か増加したが0.16を示して不漁，ビンナガは10月の高率2.08から低下して1.52となった．この海区としてはやや好漁である，クロカワは，10月0.36のからやや減少して0.26を示し，好漁期にあるものと思われる．

この資料は，南海区水研と神奈川県水試が委託調査船334隻より集め，これを統計的に分離したものである．

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数	ま[illegible] きはだ	めばち
ガラパゴス	6— 8S 117—109W	1	0	23.9 25.0		30	12063	60315	362 0.60	2008 3.33
0— 15S 140—120W	4— 7S 132—123W	6	4	25.1 26.5		110	44280	203145	3604 1.77	7046 3.47
アルキペラゴ	18— 23S 140—132W	4	3	23.2 26.9		85	36753	151650	660 0.44	610 0.40
30— 40N 180—140W	29— 34N 180—143W	20	12	19.0 24.4		351	125086	549137	30 0.01	14328 2.61
ミッドウエー	27— 30N 179—157W	12	8	19.5 25.5		157	53049	218677	245 0.11	4373 2.00
ハワイ南西 (5°N 以北)	6— 12N 179—163W	2	0	27.0 29.5		15	6051	26868	153 0.57	292 1.09
タヒチ	15— 21S 145—139W	1	1	24.5 27.4		25	10235	45500	247 0.54	85 0.19
サモア	0— 1S 166—160W	1	1	27.2 29.8		18	5040	25200	1073 4.26	81 0.32
トンガ	21— 24S 179—177W	1	1	22.1 24.2		9	2600	15600	185 1.19	26 0.17
チヤタム	36— 40S 178E—179W	2	0	16.1 18.6		50	21612	86448		50 0.06
35— 40N 150E—180	34— 40N 149—177E	53	41	17.0 24.6		771	198754	1061186	330 0.03	7485 0.71
30— 35N 150E—180	30— 36N 147—179E	81	58	18.6 24.6		1073	286191	1504185	1171 0.08	9148 0.61
東北	35— 38N 144—151E	3	2	18.4 23.2		45	8685	45630	9 0.02	129 0.28
伊豆諸島東方	31— 35N 145—151E	3	2	21.2 23.4		23	4830	22960	7 0.03	97 0.42
南海	30— 33N 134—137E	3	3	23.8 24.8		37	4640	26400	19 0.07	94 0.36
西部太平洋 (170°E以東)	27— 29N 176—178E	1	1	21.4 24.2		8	2780	16680	19 0.11	294 1.76
西部太平洋 (170°E以西)	24— 30N 145—154E	2	2	23.5 27.5		30	7010	37925	248 0.65	247 0.65
南洋北部 (170°E以東)	10— 13N 175E—179W	2	2	28.2 29.0		37	14398	68284	364 0.53	1523 2.23
南洋北部 (170°E以西)	10— 13N 162—168E	2	0	29.3 30.0		14	5110	21850	109 0.50	321 1.47
南洋南部 (170°E以東)	6— 10N 174—176E	1	1	27.8 29.3		12	4243	16972	371 2.19	258 1.52
南洋南部 (170°E以西)	0— 10N 131—172E	33	20	28.0 30.0		322	113838	533760	16184 3.03	5989 1.12
ソロモン	0— 16S 139—177E	37	22	24.0 30.2		430	156669	771921	14972 1.94	1830 0.24

(1958年11月操業分)

ぐろ			かじき					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	くろ鮪	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
6 0.01			107 0.18	7 0.01	120 0.20	23 0.04	40 0.07	131 0.22	97 0.16	241 0.40	3142 5.21	
489 0.24			432 0.21	34 0.02	96 0.05	58 0.03			506 0.25	488 0.24	12753 6.28	
2719 1.79		6	1650 1.09	28 0.02	473 0.31	22 0.01	1		467 0.31	160 0.11	6796 4.48	
448 0.08	1		45 0.01	1	157 0.03	55 0.01	8	130 0.02	515 0.09	819 0.15	16537 3.01	
204 0.09			58 0.03	1	291 0.13	86 0.04	2	144 0.06	341 0.16	847 0.39	6592 3.01	
1			58 0.22		6 0.02						510	
604 1.33			442 0.97	4 0.01	39 0.09	2	1				1424	
16 0 06			33 0.13	4 0.02	5 0.02		2 0.01	4 0.02	1	3 0.01	1222 4.85	
282 1.81			6 0.04	6 0.04	31 0.20	5 0.03		31 0.20	80 0.51	74 0.47	726 4.65	
1032 1.19		5606 6.48		1		3					6692	
10553 0.99	191 0.02		118 0.01	7	1753 0.17	4570 0.43	50	60 0.01	875 0.08	7557 0.71	33549 3.16	
18097 1.20	59		212 0.01	15	3726 0.25	3015 0.20	1	210 0.01	1440 0.01	5297 0.35	42391 2.82	
759 1.66			10 0.02		147 0.32	71 0.16			48 0.11	1041 2.28	2214 4.85	
34 0.15			4 0.12		46 0.20	33 0.14			11 0.05	151 0.66	383 1.67	
19 0.07			1		22 0.08	18 0.07			5 0.02	108 0.41	286 1.08	
17 0.10			3 0.02	1 0.01	42 0.25	2 0.01			19 0.11	110 0.66	507 3.04	
244 0.64			9 0.02		57 0.15	41 0.11		26 0.07	92 0.24	56 0.15	1020 2.69	
145 0.21			196 0.29	1	18 0.03	4	75 0.11		10 0.01	6 0.01	2342 3.43	
5 0.02			102 0.47		3 0.01	2 0.01			2 0.01		544	
7 0.04			102 0.60		7 0.04	2 0.01	7 0.04				754	
55 0.01			2145 0.40	35 0.01	50 0.01	42 0.01	708 0.13	402 0.08	265 0.05	50 0.01	25925 4.86	
7746 1.00			2387 0.31	1457 0.19	125 0.02	89 0.01	1577 0.20	174 0.02	695 0.09	422 0.05	31474 4.08	

ニユー カレドニヤ	14— 29S 145—179E	31	17	20.0 27.6		477	174664	851375	8840 1.04	1319 0.15
ニユー ジーランド	31— 34S 170—173E	1	1	16.7 20.0		14	4930	29650	125 0.42	358 1.21
台灣東海	25— 27N 124—126E	1	1	24.0 24.4		13	3900	19500	97 0.50	233 1.19
バンダ フロレス	3— 7S 123—133E	5	3	25.6 30.0		70	25920	119810	2401 2.00	1300 1.09
小スンダ チモール	9— 15S 116—125E	3	1	27.4 30.4		31	13021	70716	307 0.43	182 0.26
ジヤワ沿海	9— 12S 103—110E	4	1	27.7 28.7		51	19694	90310	1858 2.06	1316 1.46
スマトラ西岸	8— 10S 91—101E	4	1	27.1 28.6		65	25827	127935	2730 2.13	2140 1.67
濠洲西方	14— 24S 93—118E	5	3	21.2 29.0		125	50094	245840	1315 0.53	331 0.13
中部印度洋	8— 12S 80— 90E	2	1	26.9 28.7		19	7516	37580	391 1.04	363 0.97
アラビア	1— 4N 60— 68E	3	1	27.4 30.0		81	35230	140480	7535 5.36	2616 1.86
西部印度洋	17— 24S 50— 63E	3	0	22.8 26.5		30	12150	60350	891 1.48	28 0.05
アマゾン	3— 4N 39— 35W	1	0	27.4 27.8		12	3296	13184	977 7.41	21 0.16
合計	34	334	214			4640	1500159	7317023	67829 0.93	66521 0.91

12944			820	2575	3518	276	102	79	1525	731	32729	
1.52			0.10	0.30	0.41	0.03	0.01	0.01	0.18	0.09	3.84	
824		389		1	24				19		1740	
2.78		1.31			0.08				0.06			
4			1	4	5	5	1			43	393	
0.02				0.02	0.03	0.03				0.22		
			124	217	21	19	102	5	100	93	4382	
			0.10	0.18	0.02	0.02	0.09		0.08	0.08	3.66	
157		1415	65	171	232	13	9	3	46	40	2640	
0.22		2.00	0.09	0.24	0.33	0.02			0.07	0.06	3.73	
1156		2	134	170	121	16	4		5		4782	
1.28			0.15	0.19	0.13	0.02			0.01			
856			188	94	176	16	73		12		6285	
0.67			0.15	0.07	0.14	0.01	0.06		0.01			
7774		2612	314	480	1243	75	12		303	95	14554	
3.16		1.06	0.13	0.20	0.51	0.03			0.12	0.04	5.92	
1719			97	22	29	11	5	7	22	47	2713	
4.57			0.26	0.06	0.08	0.03	0.01	0.02	0.06	0.13	7.22	
			173	66	252	71	77		29	253	11072	
			0.12	0.05	0.18	0.05	0.05		0.02	0.18	7.88	
7062			166	53	31	26	10		75	16	8358	
11.70			0.28	0.09	0.05	0.04	0.02		0.12	0.03	13.85	
200			34				12		48		1292	
1.52			0.26				0.09		0.36			
76178	251	10030	10236	5455	12866	8671	2879	1406	7653	18748	288723	
1.04		0.14	0.14									

▷ 最高の技術……永い信用 ◁

営業種目
高級無線通信機　ラジオヒーター
船舶用無線機　放送施設一式
高級無線用測定器　極超短波通信機
超短波通信機　ビーコン装置
VHF新聞通信社用

國際電氣株式會社

取締役社長　山下知二郎

本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150　電話砧(41)(代)7171—9番
電話武蔵調布472番
東京営業所　東京都港区芝西久保櫻川町9　電話芝(43)代表7373—9番
大阪出張所　大阪市北区中之島2の25(江商ビル508号室)　電話北浜(23)4553番
福岡出張所　福岡市天神町55(伊藤ビル)　電話中(4)2569・8198番

月別、漁場別、鮪類体長組成表（1958年11月操業分）

（別表２）

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	50cm以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171cm以上	計	漁獲尾数
き	3	0—15S 140—120W	5—7S 132—123W	76						2 0.9	12 5.4	45 20.3	34 15.3	33 14.9	52 23.4	34 15.3	8 3.6	2 0.9	222 100	2241
	2	アルキペラゴ	18—23S 140—132W	51							1 1.4	1 1.4	1 1.4	2 2.8	24 33.3	34 47.2	8 11.1	1 1.4	72 100	397
	5	30—40N 180—140W	29—33N 169—149W	131			3 18.8	4 25.0					6 37.5	1 6.3	1 6.3			1 6.3	16 100	22
	5	ミッドウェー	27—30N 179—168W	67			8 7.8	40 38.8	6 5.8	1 1.0	2 1.9	6 5.8	16 15.5	17 16.5	6 5.8	1 1.0			103 100	162
	1	タヒチ	15—21S 145—139W	25									1 2.6	4 10.3	15 38.5	16 41.0	3 7.7		39 100	247
	1	サモア	0—1S 166—160W	18								3 2.2	49 36.6	56 41.8	26 19.4				134 100	1073
	20	35—40N 150E—180	34—39N 149—177E	323			17 7.5	26 11.5		1 0.4	4 1.8	18 7.9	49 21.6	52 22.9	27 11.9	15 6.6	18 7.9		227 100	227
	41	30—35N 150E—180	31—36N 149—179E	591		3 0.4	15 1.9	60 7.7	6 0.8	3 0.4	7 0.9	19 2.4	196 25.2	169 21.7	189 24.3	91 11.7	13 1.7	8 1.0	779 100	809
	2	東北	35—38N 144—151E	31									2 100.0						2 100	5
	3	南海	30—33N 134—137E	37							1 5.6	1 5.6	7 38.9	5 27.8	3 16.7	1 5.6			18 100	19
は	1	西部太平洋 (170°E以東)	27—29N 176—178E	8		1 7.1	1 7.1	7 50.0	1 7.1				1 7.1	3 21.4					14 100	17
	2	西部太平洋 (170°E以西)	24—30N 145—154E	30			16 7.0	42 18.4	4 1.8	1 0.4	2 0.9	29 12.7	105 46.1	17 7.5	2 0.9	4 1.8	6 2.6		228 100	248
	1	南洋北部 (170°E以東)	11—13N 175—179W	27						1 1.5	11 16.2	28 41.2	23 33.8	5 7.4					68 100	291
	1	南洋南部 (170°E以東)	6—10N 174—176E	12			2 0.7	7 2.5	13 4.7	11 4.0	35 12.6	117 42.2	68 24.5	20 7.2	3 1.1	1 0.4			277 100	371
	16	南洋南部 (170°E以西)	1—10N 134—172E	205			9 0.2	13 0.3	43 1.2	114 3.1	619 16.6	1505 40.3	1103 29.5	283 7.6	36 1.0	3 0.1	6 0.2	2 0.1	3736 100	11344

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	60 cm 以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm 以上	計	漁獲尾数
だ	14	ソロモン	0—16S 144—177E	247				3 0.1	14 0.6	51 2.2	319 13.6	553 23.5	607 25.8	473 20.1	265 11.3	54 2.3	9 0.4	4 0.2	2352 100	7877
	8	ニューカレドニヤ	15—26S 145—173E	159				5 0.4	11 1.0	34 3.0	161 14.3	192 17.1	175 15.6	259 23.0	209 18.6	58 5.2	13 1.2	8 0.7	1125 100	3556
	1	ニュージーランド	31—34S 170—173E	14						2 15.4	2 15.4	4 30.8	2 15.4	2 15.4		1 7.7			13 100	125
	1	台湾東海	25—27S 124—126E	13			1 1.2	15 18.1	22 26.5	5 6.0	4 4.8	13 15.7	9 10.8	8 9.6	2 2.4	4 4.8			83 100	97
	3	バンダフロレス	3—5S 123—132E	45			7 1.0	15 2.1	9 1.3	20 2.8	46 0.5	214 30.1	227 31.9	142 20.0	28 3.9	3 0.4			711 100	1707
	1	小スンダチモール	14—15S 116—119E	22							4 3.4	23 19.5	29 24.6	31 26.3	24 20.3	6 5.1	1 0.8		118 100	223
	1	ジャワ沿海	10—12S 104—110E	20			1 0.5	1 0.5			2 1.0	58 27.8	73 34.9	41 19.6	29 13.9	4 1.9			209 100	798
	1	スマトラ西岸	9—10S 100—101E	12						2 2.3	5 5.7	36 40.9	17 19.3	18 20.5	6 6.8	2 2.3	2 2.3		88 100	380
	1	濠洲西方	19—24S 99—101E	35								1 1.0	2 2.0	13 13.0	69 69.0	13 13.0	1 1.0	1 1.0	100 100	563
	1	アラビア	2—4N 60—66E	23						2 3.4	12 20.7	7 12.1	10 17.2	21 36.2	6 10.3				58 100	1954
め	4	0—15S 140—120W	5—7S 132—123W	87					17 1.6	23 2.2	46 4.4	119 11.4	161 15.5	136 13.1	204 19.6	138 13.3	110 10.6	86 8.3	1040 100	5938
	1	アルキペラゴ	19—21S 136—132W	31					1 6.3		1 6.3	2 12.5	4 25.0	3 18.8	2 12.5	2 12.5	1 6.3		16 100	243
	11	30—40N 180—140W	29—33N 178—143W	239		2 0.1	13 0.6	162 7.1	297 13.1	55 2.4	163 7.2	377 16.6	138 6.1	525 23.1	452 19.9	53 2.3	28 1.2	6 0.3	2271 100	10239
	7	ミッドウエー	27—30N 179—168W	97		3 0.3	5 0.4	53 4.8	63 5.7	28 2.5	65 5.8	72 6.5	83 7.5	278 25.0	328 29.5	66 5.9	39 3.5	29 2.6	1112 100	2531
	1	タヒチ	15—21S 145—139W	25							5 18.5	3 11.1	7 25.9	4 14.8	5 18.5	1 3.7		2 7.4	27 100	85
	35	35—40N 150E—180	34—40N 149—177E	575	1	18 0.4	25 0.5	152 3.2	442 9.4	453 9.6	998 21.2	242 5.1	812 17.2	946 20.1	329 7.0	165 3.5	103 2.2	32 0.7	4718 100	6126

ば　ち

43	30—35N 150E—180	32—36N 149—179E	638	3 0.1	9 0.2	16 0.3	160 3.2	458 9.1	373 7.4	1122 22.2	306 6.0	978 19.3	1063 21.0	345 6.8	121 2.4	67 1.3	37 0.7	5058 100	5912
2	東　北	35—38N 144—151E	31				2 2.1	4 4.2	3 3.1	14 14.6	6 6.2	15 15.6	35 36.5	12 12.5		3 3.1	2 2.1	96 100	105
1	伊豆諸島東方	33—35N 147—151E	11					10 16.1	3 4.8	14 22.6	2 3.2	16 25.8	16 25.8	1 1.6				62 100	62
3	南　海	30—33N 134—137E	37			2 2.2	8 8.7	23 25.0	12 13.0	7 7.6	3 3.3	16 17.4	5 5.4	7 7.6	7 7.6	2 2.2		92 100	94
1	西部太平洋 (170°E以東)	27—29N 176—178E	8		2 1.1	1 0.6	21 11.8	15 8.4	4 2.2	24 13.5	14 7.9	18 10.0	45 25.3	19 10.7	9 5.1	4 2.2	2 1.1	178 100	294
2	西部太平洋 (170°E以西)	24—30N 145—154E	30		16 11.7	8 5.8	22 16.1	32 23.4	7 5.1	19 13.9	2 1.5	16 11.7	8 5.8	6 4.4	1 0.7			137 100	247
2	南洋北部 (170°E以東)	10—13N 175E—179W	37		1 0.2	1 0.2	1 0.2	47 7.4	77 12.1	127 20.0	171 26.9	106 16.7	50 7.9	36 5.7	12 1.9	5 0.8	1 0.2	635 100	1523
17	南洋南部 (170°E以西)	1—9N 134—172E	211		1	1	31 1.2	172 6.7	200 7.8	490 19.2	519 20.3	650 25.5	314 12.3	135 5.3	26 1.0	10 0.4	2 0.1	2551 100	4267
11	ソロモン	0—16S 144—177E	190	4 0.7	2 0.3		5 0.9	28 4.8	54 9.2	141 24.1	140 24.0	107 18.3	55 9.4	36 6.2	12 2.1			584 100	873
9	ニユー カレドニヤ	15—26S 145—169E	158				4 1.4	21 7.6	22 7.9	24 8.6	34 12.2	55 19.8	38 13.7	42 15.1	17 6.1	16 5.8	5 1.8	278 100	610
1	ニユー ジーランド	31—34S 170—173E	14						4 5.2	14 18.2	16 20.8	15 19.5	13 16.9	8 10.4	6 7.8	1 1.3		77 100	358
1	台湾東海	25—27N 124—126E	13	2 1.1	1 0.5	14 7.4	8 4.2	22 11.6	23 12.2	31 16.4	30 15.9	27 14.3	23 12.2	7 3.7	1 0.5			189 100	233
2	バンダ フロレス	4—5S 124—132E	38		3 1.1	1 0.0	10 3.5	5 1.8	29 10.2	18 6.3	33 11.6	113 39.6	58 20.4	15 5.3				285 100	754
1	小スンダ チモール	14—15S 116—119E	22					8 8.7	6 6.5	35 38.0	24 26.1	17 18.5	2 2.2					92	177
1	ジヤワ沿海	10—12S 104—110E	20				1 0.6	6 3.5	2 1.2	12 7.0	19 11.0	50 29.1	43 25.0	32 18.6	7 4.1			172 100	525
1	スマトラ西岸	9—10S 100—101E	12					9 9.7	8 8.6	13 14.0	18 19.4	18 19.4	19 20.4	6 6.5	2 2.2			93 100	355
1	濠洲西方	19—24S 99—101E	35						1 14.3			1 14.3	3 42.9	2 28.6				7 100	96
1	アラビア	2—4N 60—66E	23				1 1.2	7 7.4	18 19.1	8 8.5	5 5.3	18 19.1	16 17.0	15 16.0	3 3.2	3 3.2		94 100	954

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	40cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121cm以上	計	漁獲尾数
びんなが	5	30—40N 180—140W	29—33N 169—153W	104							11 21.2	35 67.3	6 11.5		52 100	67
	2	ミッドウエー	28—30N 178—169W	36						10 22.7	10 22.7	21 47.7	3 6.8		44 100	45
	30	35—40N 150E—180	34—40N 149—177E	519			24 1.5	40 2.4	106 6.5	550 33.5	578 35.2	232 14.1	76 4.6	36 2.2	1642 100	7262
	36	30—35N 150E—180	30—36N 149—179E	544					3 0.2	241 13.3	1018 56.3	428 23.7	115 6.4	2 0.1	1807 100	11063
	2	東北	35—38N 144—151E	31				4 3.7	17 15.7	65 60.2	21 19.4	1 0.9			108 100	759
	2	伊豆諸島東方	31—35N 147—151E	17						12 44.4	9 33.3	4 14.8	2 7.4		27 100	29
	3	南海	30—33N 134—137E	37					3 18.8	10 62.5	1 6.3	2 12.5			16 100	19
	2	西部太平洋 (170°E以西)	24—30N 145—154E	30							18 16.7	67 62.0	22 20.4	1 0.9	108 100	244
	1	南洋北部 (170°E以東)	10—12N 176—178E	10							6 24.0	17 68.0	2 8.0		25 100	22
	3	南洋南部 (170°E以西)	0—10N 131—162E	29							13 68.4	6 31.6			19 100	20
	4	ソロモン	4—16S 144—166E	65					1 0.4	127 50.4	121 48.0	3 1.2			252 100	1286
	5	ニューカレドニア	15—21S 146—173E	85					10 1.8	54 9.9	399 72.8	85 15.5			548 100	3891
	1	台灣東海	25—27N 124—126E	13						1 25.0	2 50.0	1 25.0			4 100	4
	1	小スンダチモール	14—15S 116—119E	22							11 44.0	13 52.0	1 4.0		25 100	134
	1	ジャワ沿海	10—12S 104—110E	20							83 85.6		13 13.4	1 1.0	97 100	928

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	80cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201cm以上	計	漁獲尾数
いんどまぐろ	1	アルキペラゴ	19—21S 140—134W	18									1 16.7	5 83.3					6 100	5
	1	ニュージーランド	31—34S 170—173E	14					3 5.3	4 6.9	13 22.4	18 31.0	13 22.4	6 10.3	1 1.7				58 100	389
	1	小スンダチモール	14—15S 116—119E	22						2 0.7	3 1.0	50 16.6	128 42.5	96 31.9	18 6.0	4 1.3			301 100	1170
	2	濠洲西方	14—24S 97—116E	63						1 0.5	10 5.5	78 42.6	62 33.9	31 16.9	1 0.5				183 100	1520

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251cm以上	計	漁獲尾数
くろ	3	0—15S 140—120W	5—7S 132—123W	76			1 0.8	3 2.3	7 5.3	10 7.6	23 17.6	26 19.8	13 9.9	11 8.4	11 8.4	9 6.9	7 5.3	10 7.6	131 100	311
	1	アルキペラゴ	19—21S 136—132W	31				1 1.6	11 17.5	11 17.5	24 38.1	8 12.7	4 6.3		1 1.6	1 1.6	1 1.6	1 1.6	63 100	618
	3	30—40N 180—140W	29—33N 169—143W	74								1 14.3		1 14.3	1 14.3	3 42.9		1 14.3	7 100	7
	6	ミッドウエー	27—30N 179—166W	75				1 2.5	2 5.0	1 2.5	1 2.5		10 25.0	4 10.0	8 20.0	3 7.5	4 10.0	6 15.0	40 100	35
	1	タヒチ	15—21S 145—139W	25	1 0.4			2 0.9	41 17.4	62 26.4	73 31.1	25 10.6	8 3.4	3 1.3	4 1.7	6 2.6	4 1.7	6 2.6	235 100	442
	21	35—40N 150E—180	34—40N 149—177E	361		1 1.0		1 1.0	6 6.1	4 4.0	24 24.2	12 12.1	13 13.1	13 13.1	13 13.1	4 4.0	2 2.0	6 6.1	99 100	101
	36	30—35N 150E—180	30—36N 149—179E	528	1 0.8			1 0.8	11 8.7	6 4.7	11 8.7	9 7.1	22 17.3	20 15.7	13 10.2	13 10.2	11 8.7	9 7.1	127 100	127
	2	東北	35—38N 144—151E	31		1 10.0					2 20.0	1 10.0	3 30.0		2 20.0			1 10.0	10 100	10
	2	伊豆諸島東方	31—35N 147—151E	17									1 33.3	1 33.3		1 33.3			3 100	3
	1	南海	31—32N 134—136E	11									1 100.0						1 100	1
	2	西部太平洋(170°E以西)	24—30N 145—154E	30		1 11.1	1 11.1	2 22.2	2 22.2		1 11.1		1 11.1				1 11.1		9 100	9

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251 cm 以上	計	漁獲尾数
	1	南洋北部 (170°E以東)	11—13N 175E—179W	27	4 4.5	8 9.0	11 12.5	22 25.0	26 29.5	8 9.0			1 1.1	1 1.1	3 3.4	3 3.4		1 1.1	88 100	161
	1	南洋南部 (170°E以東)	6—10N 174—176E	12	22 16.1	11 8.0	31 22.6	27 19.7	22 16.1	5 3.6	2 1.5	2 1.5	1 0.7	5 3.6	3 2.2	3 2.2	2 1.5	1 0.7	137 100	102
か	16	南洋南部 (170°E以西)	1—10N 134—172E	208	138 12.4	136 12.2	317 28.5	263 23.6	129 11.6	38 3.4	25 2.2	28 2.5	12 1.1	7 0.6	9 0.8	2 0.2	1 0.1	9 0.8	1114 100	1418
	16	ソロモン	0—16S 144—177E	261	47 5.6	94 11.3	150 18.0	148 17.8	186 22.3	65 7.8	30 3.6	32 3.8	26 3.1	19 2.3	15 1.8	3 0.4	5 0.6	13 1.6	833 100	1394
	9	ニユーカレドニヤ	15—26S 145—169E	159	4 1.1	21 5.7	35 9.5	46 12.5	79 21.5	38 10.3	31 8.4	15 4.1	26 7.1	30 8.2	12 3.3	19 5.2	4 1.1	8 2.2	368 100	325
	1	台灣東海	25—27N 124—126E	13					1 100.0										1 100	1
	2	バンダフロレス	3—5S 123—132E	27		4 5.9	10 14.7	7 10.3	18 26.5	8 11.8	3 4.4	8 11.8	6 8.8	3 4.4			1 1.5		68 100	58
わ	1	小スンダチモール	14—15S 116—119E	22			3 7.9	3 7.9	11 28.9	6 15.8	6 15.8	6 15.8		1 2.6	1 2.6	1 2.6			38 100	38
	1	ジヤワ沿海	10—12S 104—110E	20				2 8.3	10 41.7	4 16.7	3 12.5	2 8.3	1 4.2			2 8.3			24 100	27
	3	濠洲西方	14—24S 93—116E	93				1 1.4	7 9.9	22 31.0	21 29.6	4 5.6	4 5.6	4 5.6	4 5.6	2 2.8	1 1.4	1 1.4	71 100	242
	1	アラビア	2—4N 60—66E	23				1 14.3	1 14.3	2 28.6	2 28.6		1 14.3						7 100	40
	3	0—15S 140—120W	5—7S 130—123W	67					1 3.8		5 19.2	1 3.8	3 11.5		2 7.7	2 7.7	4 15.4	8 30.8	26 100	27
	1	アルキペラゴ	19—21S 136—123W	31								1 100.0							1 100	7
	1	タヒチ	15—21S 145—139W	25						2 50.0		1 25.0						1 25.0	4 100	4
し	1	トンガ	21—24S 179—177W	9				1 100.0											1 100	6
	3	35—40N 150E—180	34—36N 151—175E	39				1 33.3		1 33.3								1 33.3	3 100	3

ろ	11	30—35N 150E—180	32—36N 149—174E	146				2 15.4	2 15.4	4 30.8	4 30.8		1 7.7						13 100	12
	1	西部太平洋 (170°E以東)	27—29N 176—178E	8						1 100.0									1 100	1
	1	南洋北部 (170°E以東)	11—13N 175E—179W	27							1 100.0								1 100	1
	10	南洋南部 (170°E以西)	1—8N 134—172E	134			1 5.0	1 5.0	6 30.0	2 10.0	3 15.0	3 15.0	1 5.0	1 5.0	2 10.0				20 100	23
か	17	ソロモン	1—16S 144—177E	262		1 0.2	26 4.7	45 8.1	52 9.4	60 10.8	68 12.3	62 11.2	53 9.6	45 8.1	27 4.9	14 2.5	22 4.0	78 14.1	553 100	1143
	12	ニューカレドニア	15—28S 145—173E	209	1 0.2	2 0.3	11 1.7	39 6.0	36 5.5	71 10.9	92 14.1	78 12.0	73 11.2	64 9.8	35 5.4	22 3.4	16 2.5	111 17.1	651 100	1844
	1	台灣東海	25—27S 124—126E	13				2 50.0		1 25.0	1 25.0								4 100	4
わ	1	バンダフロレス	4—5S 124—126E	18	1 4.3	2 8.7	4 17.4	4 17.4	1 4.3		3 13.0	3 13.0	1 4.3			1 4.3		3 13.0	23 100	27
	1	小スンダチモール	14—15S 116—119E	22		6 10.7	17 30.4	11 19.6	1 1.8	3 5.4	3 5.4	6 10.7	2 3.6	4 7.1	3 5.4				56 100	111
	1	ジャワ沿海	10—12S 104—110E	20		3 7.0	9 20.9	7 16.3	3 7.0	3 7.0	3 7.0	6 14.0	6 14.0	1 2.3		1 2.3	1 2.3		43 100	81
	3	濠洲西方	14—24S 93—116E	93				1 2.5	3 7.5	2 5.0	6 15.0	5 12.5	3 7.5	10 25.0	2 5.0	3 7.5	2 5.0	3 7.5	40 100	353
	1	アラビヤ	2—4N 60—66E	23									3 75.0			1 25.0			4 100	12

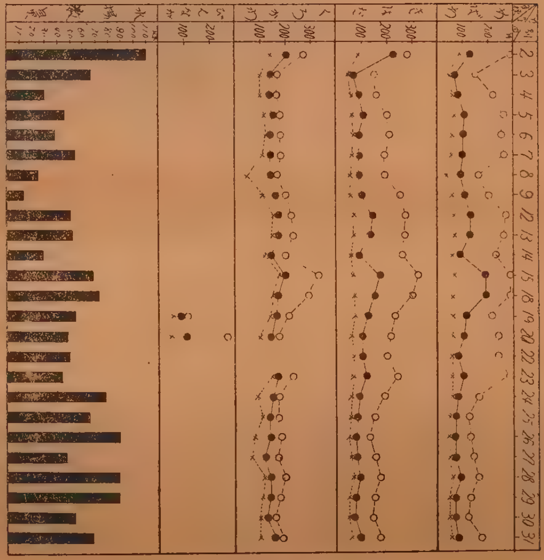
魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100 cm以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221 cm以上	計	漁獲尾数
ま	4	0—15S 140—120W	5—7S 132—123W	87			3 3.3	2 2.2	3 3.3	16 17.8	27 30.0	19 21.1	12 13.3	8 8.9					90 100	74
	2	アルキペラゴ	18—23S 140—132W	51			1 1.4	1 1.4	2 2.9	13 18.8	13 18.8	16 23.2	16 23.2	4 5.8	2 2.9			1 1.4	69 100	276
	8	30—40N 180—140W	29—33N 178—143W	185			5 8.3	17 28.3	21 35.0	13 21.7	1 1.7	2 3.3	1 1.7						60 100	72
	6	ミッドウエー	27—30N 179—168W	85	32 10.7	23 7.7	38 12.8	112 37.6	66 22.1	10 3.4	4 1.3	4 1.3	4 1.3	4 1.3			1 0.3		298 100	219

	1	タ ヒ チ	15— 21S 145—139W	25					2 6.7	6 20.0	7 23.3	8 26.7	4 13.3	3 9.9						30 100	39
	32	35— 40N 150E—180	34— 40N 149—177E	532		1 0.1	50 3.6	388 27.9	621 44.6	231 16.6	84 6.0	15 1.1	1 0.1			1 0.1	1 0.1			1393 100	1391
か	43	30— 35N 150E—180	30— 36N 149—179E	635	1	1	129 5.5	663 28.2	1043 44.4	383 16.3	99 4.2	19 0.8	4 0.2	2 0.1		1	1	2 .01		2348 100	2282
	2	東 北	35— 38N 144—151E	31			2 2.4	23 27.4	39 46.4	12 14.3	6 7.1	2 2.4								84 100	136
	1	伊豆諸島東方	33— 35N 147—151E	11				6 30.0	10 50.0	3 15·0	1 5.0									20 100	20
	3	南 海	30— 33N 134—137E	37			1 5.0	11 55.0	6 30.0	2 10.0										20 100	22
	2	西部太平洋 (170°E以西)	24— 30N 145—154E	30		1 1.8	14 25.0	28 50.0	9 16.1	3 5.4	1 1.8									56 100	57
じ	1	南洋北部 (170°E以東)	11— 13N 175E—179	27			1 5.9	6 35.3	4 23.5	5 29.4		1 5.9								17 100	17
	1	南洋南部 (170°E以東)	6— 10N 174—176E	12	2 25.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5											8 100	7
	8	南洋南部 (170°E以西)	3— 10S 138—162E	92	1 5.0		1 5.0	4 20.0	9 45.0	2 10.0	3 15.0									20 100	19
	5	ソロモン	7— 16S 144—166E	106				1 2.4	8 19.5	4 9.8	5 12.2	14 34.1	8 19.5	1 2.4						41 100	58
	15	ニュー カレドニヤ	15— 26S 145—174E	227			3 0.2	11 0.9	11 0.9	27 2.1	143 11.4	440 35.0	390 31.0	186 14.8	38 3.0	7 0.6	1 0.1			1257 100	1909
き	1	ニュー ジーランド	31— 34S 170—173E	14			1 5.6	1 5.6			2 11.1	2 11.1	6 33.3	5 27.8		1 5.6				18 100	24
	1	台湾東海	25— 27S 124—126E	13				1 20.0	3 60.0	1 20.0										5 100	5
	2	バンダ フロレス	4— 5S 124—132E	38			1 9.1	3 27.3	4 36.4	2 18.2	1 9.1									11 100	11
	1	小スンダ チモール	14— 15S 116—119E	22	1 1.4		2 2.8	8 11.3	43 60.6	16 22.5	1 1.4									71 100	186
	1	ジャワ沿海	10— 12S 104—110E	20			5 10.2	7 14.3	19 38.8	12 24.5	5 10.2	1 2.0								49 100	49
	3	濠洲西方	14— 24S 93—116E	93			3 3.1	9 9.4	46 47.9	28 29.2	9 9.4	1 1.0								96 100	1024

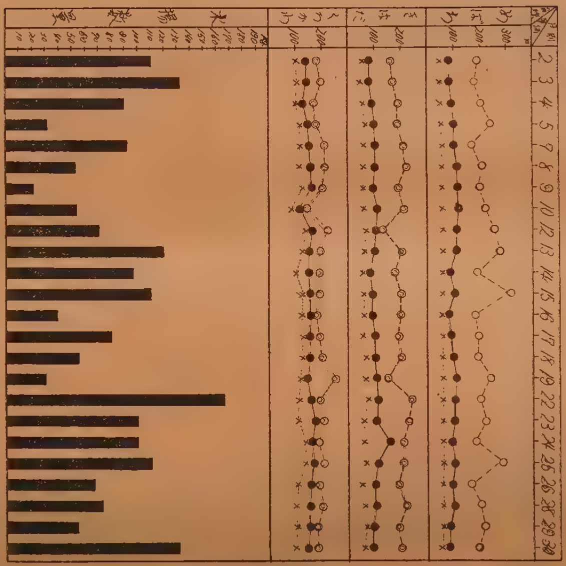
魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上	計	漁獲尾数
	1	アラビヤ	2—4N 60—66E	23					5 38.5	7 53.8	1 7.7								13 100	60
	1	0—15S 140—120W	5—6S 132—130W	20														1 100.0	1 100	6
	4	30—40N 180—140W	29—33N 169—153W	97	2 7.4		2 7.4	1 3.7	2 7.4	1 3.7			3 11.1	2 7.4	2 7.4	3 11.1	3 11.1	6 22.2	27 100	26
	1	タヒチ	15—21S 145—139W	25						1 25.0			1 25.0				1 25.0	1 25.0	4 100	2
め	28	35—40N 150E—180	34—40N 149—177E	479	31 1.4	45 2.0	185 8.1	147 6.4	220 9.6	210 9.2	105 4.6	42 1.8	119 5.2	140 6.1	258 11.3	298 13.1	216 9.5	266 11.7	2282 100	3665
	46	30—35N 150E—180	30—36N 148—179E	641	38 1.9	28 1.4	152 7.6	105 5.2	139 6.9	126 6.3	100 5.0	67 3.3	147 7.3	118 5.	213 10.6	306 15.2	252 12.6	216 10.8	2007 100	2072
	2	東北	35—38N 144—151E	31		2 5.9	1 2.9	1 2.9			4 11.8	2 5.9	3 8.8		3 8.8	5 14.7	6 17.6	7 20.6	34 100	34
	2	伊豆諸島東方	31—35N 147—151E	17	3 7.1		1 2.4		2 4.8	3 7.1	2 4.8	3 7.1	4 9.5	2 4.8	10 23.8	5 11.9	6 14.3	1 2.4	42 100	28
	3	南海	30—33N 134—137E	37					2 12.5	3 18.8	1 6.3	2 12.5	2 12.5	2 12.5	2 12.5	1 6.3	1 6.3		16 100	18
か	2	西部太平洋 (170°E以西)	24—30N 145—154E	30	3 7.3				2 4.9	5 12.2			1 2.4	3 7.3	6 14.6	3 7.3	4 9.8	14 34.1	41 100	41
	1	南洋北部 (170°E以東)	11—13N 175E—179W	27							2 66.7		1 33.3						3 100	3
	1	南洋南部 (170°E以東)	6—10N 174—176E	12									1 33.3				2 66.7		3 100	2
	7	南洋南部 (170°E以西)	2—8N 134—172E	100	15 46.9					3 9.4	3 9.4		2 6.3		3 9.4	2 6.3	2 6.3	2 6.3	32 100	32
じ	10	ソロモン	0—16S 139—177E	171			1 2.0	1 2.0	1 2.0		3 5.9	1 2.0	5 9.8	1 2.0	6 11.8	9 17.6	3 5.9	20 39.2	51 100	53
	7	ニューカレドニヤ	15—26S 145—162E	143		1 1.1	2 2.2	5 5.6	3 3.3	6 6.7	7 7.8	5 5.6	8 8.9	4 4.4	6 6.7	14 15.6	10 11.1	19 21.1	90 100	87
	1	台灣東海	25—27N 124—126E	13				1 25.0								1 25.0	1 25.0	1 25.0	4 100	5

2	バンダ フロレス	3— 5S 123—132E	27		4 22.2	1 5.6		2 11.1	2 11.1	4 22.2	5 27.8							18 100	9
1	小スンダ チモール	14— 15S 116—119E	22				2 20.0	1 10.0	1 10.0		1 10.0		2 20.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0		10 100	10
1	ジャワ沿海	10— 12S 104—110E	20					3 42.9			1 14.3	1 14.3	1 14.3			1 14.3		7 100	7
1	中部印度洋	10— 12S 88— 90E	13								1 20.0			3 60.0		1 20.0		5 100	9
1	アラビヤ	2— 4N 60— 66E	23								1 50.0		1 50.0					2 100	28

鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十四年八月



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十四年九月



まぐろ漁況概況予報　（1959年12月）

神奈川県水試漁業指導科

1．太平洋西経南部漁場

西経140°から110°にかけての海域の漁況は11月と同様で，0°から南緯2°までの水帯はキハダが好漁で漁獲は5.0屯，0°から南緯5°までの水帯と南緯7°から10°までの水常はメバチが好漁で，漁獲は，北側の海域が5.9屯，南側の海域が4.1屯になるでしょう．

ビンナガも11月と同様で，パウモツ，マーケサス周辺を除く南緯10°から22°までの180°から西経140°にかけての海域と，南緯15°から30°までの西経140°から110°にかけての海域が好漁で，漁獲は，北西側の海域が0.8屯，南東側の海域が0.5屯になる見込みです．

パウモツ周辺のクロカワは，11月と同様に好漁ですが，漁獲は更に高くなり，パウモツ，マーケサス周辺が1.7屯，その東側の西経140°以東の海域が1.7屯になるでしょう．

2．太平洋東経北部漁場

メバチの好漁海域は11月とほぼ同様で，伊豆諸島東西海域，ウラカス，南鳥島周辺，及びミッドウェー西方海域が好漁で，漁獲は0.6屯になり，11月に北東海域に出現したビンナガは，その後西ないし南に移動し，北緯35°以北の東経145°以東，及び北緯28°以北の東経160°以東の海域の漁獲が高くなります．漁獲は，今年は不漁の見込ですので北緯30°から40°までの東経170°から180°にかけての海域が0.6屯，その他の海域は0.5屯以下でしょう．

メカジキは，伊豆諸島東方海域が漁獲0.5屯で11月にひき続き好漁，10月に北緯40°線にみられた好漁海域は南下し始め，北緯35°か40°までの東経145°から180°にかけての海域が好漁になり，漁獲は11月より高く，0.3屯程度でしょう．

3．太平洋東経中部漁場

北緯5°から12°までのヤップからマーシャルにかけての海域のメバチと，0°から北緯5°までの東経130°から170°にかけての海域のキハダが好漁ですが，漁獲は，メバチが0.9屯，キハダは低下し始め，また34年は不漁年と考えられますので，1.1屯程度でしょう．

4．太平洋東経南部漁場

0°から南緯15°までの東経130°から170°にかけての海域のキハダは，11月にひき続き好漁で，漁獲は，南緯10°以北の海域が2.0屯，南緯10°から15°までの海域が1.2屯になるでしょう．また，南緯15°から20°までの海域も12月から好漁になり始め，釣獲率は1.0屯程度になる見込みです．

5　東部印度洋漁場

バンダ，フロレス海は，11月にひき続きキハダとメバチが好漁になりますが，キハダは低下し始め，漁獲は，キハダが1.9屯，メバチが1.4屯，東部印度洋のキハダは全海域が好漁になりますが，27年から31年にかけて低下した漁獲は，33年にかけてなお横ばいを続けていますので，今年の漁獲もあまり高くはならない見込みで，漁獲は，ジャワ．小スンダ列島の南方の南緯10°以北が1.9屯，南緯10°から20°にかけての海域が1.3屯，南緯20°から30°にかけての海域が2.2屯，また北緯6°から南緯30°までの東経90°から105°にかけての海域は全般的に1.9から2.2屯になる見込みです．

ビンナガは，11月と同様で，南緯20°以南，東経105°以東の洋心部のみが好漁で，漁獲は1.2屯になり，また，マカジキはオーストラリアのブルーム西方沖に出現し始め，釣獲率は0.5になるでしょう．

6．大西洋漁場

キハダの好漁海域は冬型分布となり，北緯5°から南緯5°までの海域と，南緯5°以南の西経30°以東の海域が好漁になりますが，北緯5°から南緯5°までの西経10°以西の海域はあまり高率とならず，漁獲は，北緯5°から南緯5°までの西経10°以西の海域が7.9屯，西経10°以東の海域と，南緯5°以南の西経30°以東の海域が13.6屯近くにまで達する見込みです．

まぐろ研究報告の紹介
No. 6

西部印度洋におけるマグロ類の胃内容物について

古 賀 重 行
（長崎大学水産学部研究報告 6，1958）

西部印度洋海区で漁獲された胃の内容物を調査してマグロの種類別，海区別に比較検討し漁況との関係を求めた．

(1) 鮪の胃内容物の魚種は大体30種位でキハダはメバチ，ビンチョウより出現率も高く出現尾数も非常に多い．

(2) ミズウオ科，カマス科，ホウネンエソ科，カツオの若年魚は西部印度洋，小笠原近海，南太平洋海区共高い出現率を示している．甲殻類，頭足類に就ても同様である．従って，ミズウオ科，ホウネンエソ科，カマス科，カツオの若年魚，甲殻類の Decapoda，頭足類の Decapoda はマグロの餌料として重要な位置を占めている．

(3) 西部印度洋海区に於けるマグロの摂餌量は小笠原海区，南太平洋海区より非常に多いことを示している．

(4) マグロの胃内容物の魚類，甲殻類，頭足類の組成が似通っているから，キハダ，メバチ，ビンチョウの3種間に食性に対する差異はないように思われる．

(5) キハダ，ビンチョウは季節の移行と共に摂餌量が増加し，メバチは反対に減少する時期的変化が見られる．

(6) 南太平洋海区のマグロは空胃のものが殆どであるが印度洋海区は之と逆で空胃のものは非常に少い．

(7) 釣獲率が高くなると共に胃内容物の魚類の出現率，出現尾数も増大し種類も多くなって漁況と密接な関係があるように思われる．但し甲殻類，頭足類では魚類の如く顕著な変化が見られない．

(8) 西部印度洋に於けるマグロ類はその胃の内容物からして食餌に対する選択性が明であるとは考えられない．

（紹介　中込）

日本近海におけるキハダの年令と成長

藪 田 洋 一・行 縄 茂 理
（南海区水産研究所報告 5，1957）

日本近海に於いて，竿釣及び延縄で漁獲されるキハダの体長組成を月別に検討し，各群の出現状況及び各群の移行から，成長と年令について第1表に示す結果を得た．この成長度は既往のキハダの年令に関する報告の中では，Moore のものと良く一致する．又他のマグロ類の成長に比較して，キハダの成長は早いものであると考えられる．

表 1　　日本近海のキハダの年令別体長

年　　令	0	I	II	III
体　長 (cm)	51 以 下	51～100	100～133	133～146

（紹介　中込）

かつおまぐろ漁業の現況とその問題点（二）

北洋さけます漁業者による
かつおまぐろ漁業転換問題に関連して

日本鰹鮪漁業協同組合連合会
日本鰹鮪漁業者協会

かつおまぐろ漁業の当面する諸問題

1. 問題の所在

症状＝問題点は広汎かつ，根深い．そして，現象的には経営の不安定という形をとる．一言にして説明すると，それは漁業を営むに必要な漁場，漁況，漁船とこれに付随する経営，流通上の諸問題である．前者を漁業生産の基本的な条件とすれば，後者は経済的な条件と呼ぶことが出来る．両者は相互に関連，反映し合い乍ら，症状－「経営の不安」という現象を発生せしめるのである．

まず，基本的条件の概要を眺めてみよう．

一定の漁場で沢山の漁船が長期間，継続的に魚をとっていれば，漁獲能率はどうしても下ってくる．まぐろ漁業ではこれを釣獲率の低下といっている．仮りに釣鈎100本で8尾平均とれた漁場が4尾に減ったとする．8尾当時の収益を維持するためには，その漁場における漁船数を2分の1に減らさなければならない理屈である．

勿論，これは単純な算術であって，実際にはそのような計算が成り立つわけではない．しかし，現実にはそれに近い事態が起った．そこで漁船の一部は割りの良い新漁場に転進することになるが，新漁場ははるかに遠く，従来の漁船では到底ゆけない．そこで無理な算段をして大型漁船を造った．印度洋出漁，大西洋出漁はこうして始められた．しかし合理化を促進するために実施した漁船の大型化も総べてが計画通り順調に進展したわけではなく，相当数の漁業者が現にこれによる多額の負債によって漁業経営を圧迫されているのが実情である．しかし，消極的経営に終始することを許さない程当時の状態は逼迫していたのである．大型化をしなければ，現状はいま以上にひどくなっていたであろう．こうした漁船建造に関連しての無理な資金調達による問題をわれわれは不健全借入資金問題と呼んでいる．この不健全な借入資金は次のようにして生じた．

大型化に要する資金は自己資金と主として農林漁業金融公庫あるいは農林中金の融資によって調達された．これらの資金源には自ら限度がある．その限度内で出来るだけ多くの人に漁船を建造させるためには，1件当りの融資率を引下げる以外にはない．事実，融資率は出来るだけ引下げられた．その結果は自己資金調達額の増加を招く．しかし，かつおまぐろ漁業者の大半は個人企業で，手持資金に余裕のあるものはまれである．

止むを得ず運転資金の流用，高利資金の借入，手形操作などによって都合をつけた．この部分が不健全借入資金となって高利に苦しみ，経営を圧迫する素因となっているわけである．その額は数十億円に達し，業界各層殊に個人業者において甚しい．

しかし，基本的漁業生産条件の是正のみによって漁業の安定が得られるものではない．とするならば，その面は何によってカバーさるべきであろうか．

ここに，経済的条件の問題が浮び上ってくる．これにはいろいろの問題がある．基本条件の変化によるマイナスを打ち消すためには，まず内部的合理化を図らなければならない．即ち経営上の諸問題が発生してくるし，さらに合理化をより効果的に生かすために流通－内需，輸出，それに関連した魚価の問題が起ってくる．このように経営不安定の様相は，あらゆる要素のなかに，その素因を発見することが出来る．そして，具体的には収益性の低下という形でかつをまぐろ漁業をゆさぶるのである．

以下，各要素についてもう少し詳しくふれてみよう．

2 基本的条件

(1) 漁　　場 ——面積だけは広いが——

「かつおまぐろ漁業は他の漁業に較べて極めて恵まれた立場にある」という誤った見解が一般に流布されている．敢えて誤解といおう．そこには何等の正当な根拠がないからである．「恵まれた立場」とは単純な漁場面積の対比から出発しているように考えられる．漁場が一定の海域に限定されている北洋漁業，以西底曳網漁業，捕鯨業などに比べ，かつをまぐろ漁場は太平洋，印度洋から大西洋にまでと殆んど全世界の海域に渉っている，だから恵まれているというわけである．

しかし，このような平面的な対比が如何に間違ったものであるかは，別に高度の漁業知識にまつまでもない．例えば北洋さけます漁場の海域の限定性は，さけます魚族の回帰性によるものであるが，この限定こそは北洋さけます漁業にとって決してマイナスとはならないのみか，むしろ，それが北洋さけます漁業の存在を決定的にしている筈である．だから，大規模にして集約的かつ効率的な北洋さけます漁業が成り立つ．北洋さけます漁業が日本の漁業のなかで最も経済効率が高い理由がそこにある．

これに反して，まぐろの棲息しうる海域は明らかに広大であるが，まぐろ漁業の最低の経済操業を維持しうる漁場は決して広くはない．北洋は「神によって保証された漁場」であるが，まぐろ漁場はそうではない．

かつおまぐろ漁場は常に移動する．前の操業で豊富だった漁場も，決して今度の豊漁を約束してくれない．別掲の図は，太平洋，印度洋，大西洋における，かつおまぐろ漁場の分布図であるが，それぞれチェックされた広い海面でかつおまぐろ類のすべてがどこででもとれるというわけではない．例えば豪洲の東，ニュージランド諸島の北にチェックされた広大な海域はびんながまぐろの漁場であることを示す．しかし，その意味するものは，この海域にはびんながまぐろが比較的多く棲息し或は回遊しているということだけで，誰れがいっても大漁を期待しうるということではない．実際の好漁場は，その海域のなかに一つの点として散在する，釣用語でいうポイント，穴と同じである．この点を見出すには非常な熟練を要する．まぐろ漁船の優劣をきめるのは熟練した船頭であるといわれているが，それは好点を速か見出すことが，かつおまぐろ漁業の総てであるとさえいえる特殊な性格を物語っている．

最後に漁場の変せんについてふれよう．戦前および戦後初期において，かつおまぐろ漁場は，日本近海，太平洋漁場それも内南洋を中心に南緯漁場は精々5度迄，東はミッドウエイ周辺までであった．それ以外の漁場はすべて，今から過去5ヵ年間に開拓された新漁場である．ここに漁場の遠隔化傾向が大きく指摘できるわけであるが，同時に新漁場に対する期待もそろそろ限界にきた感が深い．漁場面からみた，かつおまぐろ漁業の暗い一面がここにものぞいている．

⑵ 漁　　況　——不安なその動向——

結論から云うと，各漁場において漁況は下降線をたどっている．ここで漁況といい，敢えて資源といわないのは，両者の関連性が現在までのところ科学的に解明されていないからである．まぐろの習性は今日，依然として謎である．どこをどう洄游するのか，産卵の状態，資源増減の帰すうなど，肝心のことは全く判っていないと云える．

さて漁況の下降を示すデーターは平均釣獲率，1航海の所要日数，1航海日当りの漁獲量，年間航海数，年間漁獲率の変化によって捉えることができる．船型，漁場別にみた平均の釣獲率と稼働状況の変化は次のようである．

—釣獲率の変化—（左から昭27，30，32の順）

日本近海漁場	3.73	3.15	3.09
北部太平洋東経漁場	4.80	2.32	2.01
フイリッピン南洋漁場	7.69	2.93	2.75
東部印度洋漁場	8.81	5.82	4.07
中西部印度洋漁場	—	10.27	5.98

—稼働状況の変化—

⊙150トン型のまぐろ延縄船の場合	（昭27）～（昭32）
1航海所要日数	48日～59日
1航海日当り漁獲量	359貫～265貫
年間航海数	6.1航海～5航海
年間漁獲量比率	100～74

◉250トン型のまぐろ延縄船の場合	(昭27)～(昭32)
1航海所要日数	56日～73日
1航海日当り漁獲量	539貫～374貫
年間航海数	5.2航海～4航海
年間漁獲量比率	100～69
◉320トン型のまぐろ延縄船の場合	(昭27)～(昭32)
1航海所要日数	60日～88日
1航海日当り漁獲量	659貫～494貫
年間航海数	4.9航海～3.3航海
年間漁獲量比率	100～74

これらの平均数値は，明らかに漁況の不味を物語っている．釣獲率の低下は稼働能率を低下させ，魚がとれなくなったから操業日数も多くを要し，漁場もさらに遠く新しい範囲に求めなければならない．従って航海日数は長くなり，1航海当りの漁獲量は減少し，年間航海数も，年間の漁獲量も減少している．

(3) 漁　船 ——これ以上はふやせない——

漁場，漁況の変化は当然，漁船の変ぼうを促す，昭和27年当時におけるかつおまぐろ漁船の勢力は，許可船総数1,130隻，102,825屯であったがその内訳は次の通りである．

（カッコ内はかつおまぐろ許可漁船全体に対する100分比）

100屯 未満	840隻	(74.3)	55,932屯	(54.5)
100～200屯	268隻	(23.7)	40,540屯	(39.4)
200～300屯	13隻	(1.2)	3,102屯	(3.0)
300～400屯	7隻	(0.6)	2,186屯	(2.1)
400～500屯	—	(—)	—	(—)
500～1,000屯	2隻	(0.2)	1,066屯	(1.0)
1,000屯以上	—	(—)	—	(—)
総　計	1,130隻	(100.0)	102,826屯	(10.00)

総屯数100屯未満の中型許可船が，隻数において全体の7割強，屯数で5割以上を占め100屯以上の遠洋許可船では，この中，200屯未満（135屯—150屯程度）のものが遠洋漁船中の主流をなしていた．200屯以上の漁船は合計22隻6,653屯で全く微々たるものであった．

大型船が続々出現し始めたのは昭和28年7月，水産庁が実施した漁業法に関する特例法を実施して以来のことである．この特例法は漁業法で抑制しているいくつかの漁船の大型化に関する制限を，臨時に一定期間緩和する趣旨をもって実施されたものであるが，根底にはかつおまぐろ漁業の合理化，近代化を政策的に決定した画期的措置であった．特例法が推進した新しい漁業体制は以下のようなものである．

基本的な考え方は一種の漁場転移である．まず大型船を南緯漁場，印度洋など未開の漁場に転進させる．その後に100屯未満船を入れ，100屯未満船が操業していた中距離漁場に70屯未満船を入れる．そのためには漁船の大型化が必要であったので，漁業法で制限されている増屯その他の規制を緩和し有効な条件を与える．

この措置の結果，かつおまぐろ漁船の勢力分布は大巾に変った．特例法は昭和30年7月迄の2ヵ年にわたって実施され，かつおまぐろ漁業自身の拡大を推進するとともに，当時，経営不振に悩んでいた沿岸，沖合漁業者達を広範囲に収容した．

特例法は昭和30年に打切られ，32年にほぼその結果の全容を示すに至った．これによる変ぼうが如何に大きなものであったかは，次に示す数字が端的に表現している．

100屯未満船は622隻，50,400屯となり，隻数において200隻余，屯数で若干の減少を示したが，そのかつおまぐろ漁業に占める比率は，27年の隻数で74%屯数で55%に比べると，32年には隻数で50%屯数では25%ときわだった減少を示し，これに対して200屯以上の大型船は左記の様な躍進ぶりを示した．（カッコ内はかつおまぐろ許可漁船全体に対する100分比）

100屯 未満	622隻	(50.0)	50,359屯	(25.2)

100～200屯	415隻	(33.4)	63,277屯	(31.6)
200～300屯	54隻	(4.3)	13,113屯	(6.5)
300～400屯	85隻	(6.8)	29,333屯	(14.7)
400～500屯	33隻	(2.7)	15,315屯	(7.6)
500～1,000屯	25隻	(2.0)	17,793屯	(8.9)
1,000屯以上	9隻	(0.8)	11,038屯	(5.5)

中型船以下の減少，大型船の増加，というこの傾向は28年以降，継続的傾向としてみることが出来，この傾向は今後も続くものと考えられる．ただ，ここで注目しなければならないことは，かつおまぐろ漁業に与えられた生産力増強の条件は，特例法によって既に完了し，これ以上の増強は出来ないということである．これはさきに述べた漁場，漁況の変化および後述するかつおまぐろの需給の状況，経営の実態からみても明らかなことである．既に生産規模は総枠において固定された．漁船の能率化は，その枠内でなされなければならないものであり，その大型化は中型許可船を合併してする以外認められない．だから，大型船の増加は反面において中型船の減少となって現われてくるわけである．

われわれかつおまぐろ漁業者は，これ以上全体の生産規模の枠を拡げるべきではないことを身をもって知らされているし，苦しくともこれを守らなければならないと堅く決心している．そしてこの枠内での経営の安定と合理化にあらゆる努力を惜しまない．だから，かつおまぐろ漁業に関する諸種の生産条件が好転し，かつ，その経営が全般的に安定の域に達しない限り，この枠を拡げるような如何なる外部圧力にも決然と反対するし，どのような運動に対しても我慢がならないのである．（つづく次号完結）

営　業　種　目

船　舶・陸　上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空気凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷蔵

設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本　社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58　（夏目ビル2階）
電　話　東　京（866）0996・0997番

本会の図書誌の分譲其の他について

◎本会発行の図書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。

会　誌「鮪漁業」第6—62号（第1—5号品切）		各150円	郵送料 16円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 27 年 5 月　至昭和 28 年 4 月）			
1 部	300円　（B 5 判 150 頁）		郵送料 24円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 28 年 5 月　至昭和 29 年 3 月）			
1 部	400円　（B 5 判 226 頁）		郵送料 40円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 29 年 4 月　至昭和 30 年 3 月）			
1 部	300円　（送料を含む）（B 5 判 126 頁）		
鮪類水揚地調査報告（自昭和 30 年 4 月　至昭和 31 年 3 月）			
1 部	400円　（送料を含む）（B 5 判 135 頁）		
1956年4月～57年3月に於ける鮪漁場の漁況と海況			
1 部	500円　（送料共）（B 5 判 112 頁）		
鮪漁船操業図（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）			
1 枚	50円		郵送料 8円
鮪漁場図（海区別に表示したもの）			
10 枚	100円		郵送料 16円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真を御願い致します。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1,500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に広告掲載希望の方は本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

——お　願　い——

◎昭和33年分34年分会費（一ヵ年分 1,700 円）未納の方は本会宛至急払込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。　尚整理の都合もあり会費切れの向には一時会誌の送本を中止致しますからお含み願いあげます。

鮪漁業

1959年11月号

昭和 34 年 11 月 10 日 印 刷
昭和 34 年 11 月 10 日 発 行
監　修　神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人　菅　野　進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発行所　鮪漁業研究会
（振替貯金口座 横浜 1472）

営業品目

商船用・漁船用並に陸上用無線通信装置

SSB 無線装置の製造・装備・補修一式

七洋電機株式会社

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地

電話目黒（712）2525・2526・3314番

太洋無線が世界に誇る

各種　陸上用　航空機用　船舶用

自動方向探知機

太洋無線株式会社

東京都澁谷区楽樂町48番地

電話澁谷（46）代表5283－9番

緑星社のSV58型ラジオブイ

用途；鮪延縄・鮭鱒流網・捕　鯨・底曳トロール

漁具流失防止　位置確認　操業時間短縮　等々

株式会社　**緑　星　社**

代表取締役　吉　田　内　次

研究所　東京都中央区築地5の1（東京中央卸売市場内）

電話（54）2371番

営業所　東京都中央区小田原町2の11 電話(54)1797(代)1798番

函館出張所　函館市根崎町140番地　電話函館(2)5825番

光電の方探

Kodenのロラン

株式会社 光電製作所

東京都品川区上大崎長者丸284

電話白金(44)代表1131～7番

Koden Electronics Co. Ltd.

倉敷ビニロン クレモナ 万漁

鮪延縄・ロープ・漁網

くさらない

使いやすい

値も安い

倉敷レイヨン株式会社

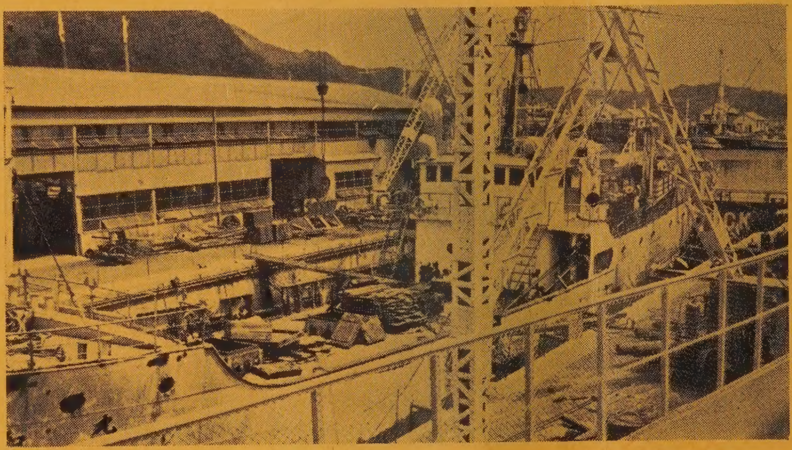
本社 大阪市北区梅田2(第一生命ビル)

東京事務所 東京都中央区日本橋室町2の4

漁船の建造、修理の御相談は

ドライドック	大きさ	長さ	幅	深さ	
		59.15 米	14.0 米	6.6 米	
	入渠可能船舶	長さ（垂線間）	幅（型）	吃水（平均汐高線1.7米に於て）	総屯数
		57.0 米	11.0 米	4.41 米	800屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50 米	500屯	2
		2条軌条式	50 米	250屯	2



下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所　電話下田 1001（代表）～3番　本社現場事務所　電話下田1005（代表）～6番
武ケ浜工場　電話下田 1008（代表）～9番
東京事務所　東京都中央区銀座東4―4　畜産会館1階　電話東京（54）9270（直通），4121（代表）～8番

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町

鮪漁業　第六十三号　昭和三十四年十一月十日発行（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日　第三種郵便物認可